

第五回

若山牧水みなかみ紀行短歌大会

高校生以下の部 作品集

高校生以下の部

入賞・入選作品

【最優秀賞 題詠】 一首

幸せは歩いてこないでも僕はその幸せを歩かせてやる

群馬県太田市立木崎中学校 2年 石井 龍太

【最優秀賞 自由題】 一首

部活中肘笠雨の野球場ベンチで待つ十一人

群馬県みなかみ町立月夜野中学校 2年 小熊航太郎

【優秀賞 題詠「歩」】 二首

また明日歩道橋に背を向ける逃亡したいまだ見ぬ未来

群馬県立利根実業高等学校 3年 福島 愛毬

コロナ禍で離れ離れはさびしいよ歩みよりたい心だけでも

群馬県立利根実業高等学校 1年 山之内 知夏

【優秀賞 自由題】 二首

スケジュールまっかに染めた夏季講習インクかたまる 「遊ぶ日」の青

群馬県みなかみ町立水上中学校 3年 野村 麗

帰り道葉の無い木々が並んでる面接試験の可否待つ日々

群馬県立利根実業高等学校 3年 山田 真那斗

【選者賞・伊藤一彦選 題詠「歩」】 二首

人生でどんな道を手も歩んでもすべてが正しく間違いはない

群馬県太田市立木崎中学校 2年 渡邊 桃香

こびとになり学校中を散歩する腰抜けるほど大きいだろう

山口県光市立光井中学校 2年 市川 芽衣

【選者賞・伊藤一彦選 自由題】 二首

君のつと例えるならば日天子にってんしわたしは君を守る月影

群馬県立利根実業高等学校 1年 小林 廉

今までと違う発表無観客少しさみしく何か新鮮

群馬県太田市立木崎中学校 2年 太田 実里

【選者賞・小島なお選 題詠「歩」】 二首

駒の音響く教室秋雨の歩兵進みて戦い続く

群馬県立沼田高等学校 1年 角田 慎太郎

歩くのが嫌いな君も上を見て雨の中でも真っ赤なもみじ

群馬県立利根実業高等学校 2年 井口 玲桜

【選者賞・小島なお選 自由題】 二首

箱に住む窓の外を眺める魚三年たてば消える雲かな

群馬県立沼田高等学校 1年 北山 桂月

戻れないみんなと過したあの時間行けたら行くよまた会えるから

群馬県立利根実業高等学校 3年 岡田 陽奈

【入選 題詠「歩」】 二十首

怖がりな僕の手つなぎ散歩するおどかす君はまるで小悪魔

群馬県立利根実業高等学校 1年 田村 愛花

帰り道並んで歩いた小さな足私のクロはどこにいったか

群馬県立利根実業高等学校 1年 武井 杏樹

しょうぎの歩前だけに進む奴だけど色々やくだつしょうじきな奴

群馬県太田市立木崎中学校 2年 嶋田 洸

太陽と仲良くなるため歩行虫は飛べない羽を光らせている

山口県光市立光井小学校 5年 横道 玄

友達といっしょに歩いたこの道は大人になれば小さなかから

群馬県太田市立木崎中学校 2年 櫻井 侑来

まぶしさに見上げてみれば青空の一人で歩く家までの道

群馬県みなかみ町立月夜野中学校 3年

小松 湊望

先生に呼び出しくろう昼休み階段すぎる一歩が重い

群馬県立沼田高等学校 1年

鈴木 勘太

秋の夜寒さ厳しい帰宅道歩きながらも英単語帳

群馬県立沼田高等学校 1年

遠藤 寛大

夏休み最後の夜に思い出す歩く音とふうりんの音

群馬県立沼田高等学校 1年

角田 唯斗

リード付け早く歩くと君の目が朱を反射し鳴る五時の鐘

群馬県立利根実業高等学校 1年

鈴木 溜奈

ハードルの歩幅合わせが難しい何度やっても後二歩減らない

群馬県立利根実業高等学校 3年

佐藤 涼風

バイバイと手を振り上げる歩道橋下る頃にも声が響いて

群馬県立利根実業高等学校 3年

芳野 成海

木漏れ日の差し込む小道歩きたび好きになつてく我が古里よ

群馬県みなかみ町立月夜野中学校 3年

山本 咲希

いつのまに背をこしそうな妹の歩む姿に少しさびしい

群馬県みなかみ町立水上中学校 2年

加藤 珠美

秋の夜外を歩けば聞こえるよ昆虫たちの心の嘆き

群馬県立沼田高等学校 1年

元 宿 響

妹のつきそいでいったパン屋さんやっていなくてとぼとぼ歩く

群馬県立利根実業高等学校 1年 堀江 紅留未

帰り道歩みをとめて空見ればきれいな虹が青を切る

群馬県立利根実業高等学校 1年 林 歩 未

「寒い寒い」スカートはいて歩く道こんな青春今しかできない

群馬県立利根実業高等学校 1年 平澤 月華

歩道橋最後の一段飛び降りて広がる夕やけ弾む心

群馬県立利根実業高等学校 1年 片桐 香菜

「私のことほんとに好き？」不安気な君に合わせてゆっくり歩く

群馬県立利根実業高等学校 1年 山崎 日瑠里

【入選 自由題】 二十首

距離間の難しい日々ウイルスと人との距離は類似している

群馬県立利根実業高等学校 3年 山田 拓実

みなかみの自然はすごいきれいです青みが増した空気とうまさ

群馬県立沼田高等学校 1年 林 竜次

待ち望んだかには売り切れ悲しいが帰りに赤い月見て喜ぶ

群馬県立利根実業高等学校 2年 生方 綾華

身が入^しみて口から湯気を吹き出すと冬の手紙が山から届く

群馬県立沼田高等学校 1年 都所 胡太

スイカ食べ麦茶飲んでまた食べるひまな一日白紙の予定

群馬県太田市立木崎中学校 2年 早川 昇吾

授業中集中していると聞こえてくる他のクラスの歌っている声

群馬県みなかみ町立水上中学校 2年

長谷川 結菜

長距離走先生厚着ぼく薄着速く走れと厚着で言うな

群馬県立沼田高等学校 1年

萩原 心輝

登る坂振り向き見ればそこにある流れる利根川夏の走り込み

群馬県立沼田高等学校 1年

吉野 亮

積みあがる悩みと雪のおもさからしたくもなるよ現実逃避

群馬県立利根実業高等学校 1年

郷原 涼輝

校庭の木の葉が散っていくように過ぎ去っていく大切な日々

群馬県立利根実業高等学校 3年

小倉 楓喬

日が入る窓に二人で寄りかかる小さな事が頭に残る

群馬県立利根実業高等学校 3年

津久井 陸翔

人生の主役は僕のはずなのに今の自分はハリボテの森

群馬県立利根実業高等学校 3年

笛木 捺生

短歌のとき思いつかない日常はなんでこんなにつまらないのか

群馬県みなかみ町立月夜野中学校 2年

ミックガン太陽

うちの猫子育てつばめを捕まえて食べずにそのまま置いて行く

群馬県みなかみ町立月夜野中学校 2年

原澤 彩太

霧雨にうたれて光る水芭蕉孤独の一輪雨ニモマケズ

群馬県みなかみ町立水上中学校 3年

高橋 昌稔

ほぼ毎日付き合っている白い布取れる日はいつ来るのだろうか

群馬県立沼田高等学校 1年

五十嵐 優翔

テスト前今回こそと思うけどひらいた脳トの中はからっぽ

群馬県立沼田高等学校 1年

平井 俊輔

小三の弟の話難しい宇宙にハングル高一分からず

群馬県立利根実業高等学校 1年

齋藤 舞

電話ごし月が綺麗と僕は言う無邪気な君に届くはずもなく

群馬県立利根実業高等学校 1年

井上 結愛

帰り道初めてつないだあなたの手誰ともちがう温もりがある

群馬県立利根実業高等学校 3年

石坂 英大

選者紹介

伊藤 一彦(いとう かずひこ)



昭和十八年（1943）宮崎県生まれ。「心の花」選者。読売文学賞、
迢空賞、斎藤茂吉短歌文学賞などを受賞。現在、牧水の生誕地宮崎県日
向市の若山牧水記念文学館館長、宮崎県立図書館名誉館長、宮崎県立看
護大学客員教授。歌集に『海号の歌』、『微笑の歌』、『月の夜声』、『光の
庭』、『待ち時間』などのほか、『若山牧水―その親和力を読む』、『牧水
の心を旅する』、『いざ行かむ、まだ見ぬ山へ』、『歌が照らす』などがある。

小島 なお(こじま なお)



昭和六十一年（1986）東京生まれ。歌人である母小島ゆかりの
手伝いをしているうちに短歌に興味を持ち、青山学院高等部在学
中から日経花壇に投稿し、2004年に最年少で角川短歌賞受賞。
2016・2020年度「NHK短歌」選者。コスモス短歌会所属。同
人誌「cocoon」編集委員。その他、現代短歌新人賞、駿河梅花文学賞受賞。
歌集に『乱反射』、『サリンジャーは死んでしまった』などがある。

高校生以下の部
【題詠
||
「歩」

作品集

466人 569首
投稿順に掲載

人生でどんな道を行んでもすべてが正しく間違いない

群馬県太田市立木崎中学校 2年 渡邊 桃香

歩も成ればと金となりて生けとし生ける物それに同じ

群馬県太田市立木崎中学校 2年 田中 樹

つかれたよ歩くのいやだかえりた帰ってねたいすいみん不足

群馬県太田市立木崎中学校 2年 高谷 一樹

楽しんで歩いていこう人として行きたいとこに行ってみたいね

群馬県太田市立木崎中学校 2年 碓氷 海斗

あきらめず一歩ふみ出す何事も勇気を出して挑戦だ

群馬県太田市立木崎中学校 2年 鳥山 夏希

手をつなぎ二人で歩いたこの道は君が電話で教えてくれた

群馬県太田市立木崎中学校 2年 太田 実里

天国へ歩む僕たち死んでいくとでもこわいがそれが当然

群馬県太田市立木崎中学校 2年 谷 優斗

部活動目標きめて一歩ずつ近づけていく優勝にむけ

群馬県太田市立木崎中学校 2年 野口 真優

登校時小学生が徒歩なのをなつかしいなとしみじみ思う

群馬県太田市立木崎中学校 2年 神田 理心

社会への登竜門の学校は夢へのための大事な一歩

群馬県太田市立木崎中学校 2年 今福 伊織

歩き出し一歩一歩と進んでく自分じしんの夢にむかつて

群馬県太田市立木崎中学校 2年 清水 真斗

人間は夢へむかつてがんばろう夢は大切歩んでいこう

群馬県太田市立木崎中学校 2年 松嶋 大翔

思い出す彼と歩んだあの日々を一人になっても消えない記憶

群馬県太田市立木崎中学校 2年 松本 昂大

歩み出す夢に向かつて日々努力たどえ負けても折れない魂

群馬県太田市立木崎中学校 2年 松本 昂大

歩いたり走ってみたりしてみたらなんと体があたたかくなる

群馬県太田市立木崎中学校 2年 赤澤 遥

挑戦し一歩踏み出すとびら開け大人の道へ踏み出す準備

群馬県太田市立木崎中学校 2年 桑原 滯

この道を歩いていくよこの先も毎回通る家までの道

群馬県太田市立木崎中学校 2年 前川 彩夏

考えて将棋のコマを歩ませる私の心は歩みを知らず

群馬県太田市立木崎中学校 2年 保木 日向子

人生も勉強も恋も一歩ずつゆくりゆくり歩んでいこう

群馬県太田市立木崎中学校 2年 金井 歩夢

散歩して通っていったこの道は大人になっても歩んでくのかな

群馬県太田市立木崎中学校 2年 金井 歩夢

一歩ずつただ一歩ずつ進んでく私が見据える未来へと

群馬県太田市立木崎中学校 2年 栗田 美空

先長い僕の人性ゆつくりとまだまだ生きる歩んでいこう

群馬県太田市立木崎中学校 2年 倉持 輝久

何度でもあきらめないで一歩ずつ強い心の持ち主になれ

群馬県太田市立木崎中学校 2年 唐澤 亜実

歩いてくたび立ちの日に歩いてくつかこの夢叶えてみせる

群馬県太田市立木崎中学校 2年 茂木 力斗

母ちゃんと楽しく散歩したけども歩く時間短すぎるよ

群馬県太田市立木崎中学校 2年 大滝 瑠依

道徳の授業での生かしたい未来のこと歩んでいこう

群馬県太田市立木崎中学校 2年 高橋 寿菜

帰り道横断歩道にボランティア毎日命を守ってくれる

群馬県太田市立木崎中学校 2年 久保田 凜旺

友達の家まで歩きこんには家に入つてさあ遊ぼう

群馬県太田市立木崎中学校 2年 久保田 凜旺

荒れ果てし真夏の庭に歩みより奇跡の花に奇跡の水を

群馬県太田市立木崎中学校 2年 久保田 凜旺

歩き出す夢への一歩少らず歩幅は広く勇気を胸に

群馬県太田市立木崎中学校 2年 野口 麻彩花

友達といっしょに歩いた帰り道夕やけによつて笑顔が光る

群馬県太田市立木崎中学校 2年 松崎 美和

部活動仲間と目指すコンクール一歩一歩とつき進め

群馬県太田市立木崎中学校 2年 松崎 美和

炎天下マラソン大会最後まで歩かず走れ私の足

群馬県太田市立木崎中学校 2年 吉田 姫渚

雨上がりいつもと変わらぬ散歩道ふと見上げれば七色の橋

群馬県太田市立木崎中学校 2年 吉田 姫渚

手を上げる横断歩道みぎひだりみんな守る小さないのち

群馬県太田市立木崎中学校 2年 吉田 姫渚

汗なみだながした分の道歩くどこまで行けば光は見える

群馬県太田市立木崎中学校 2年 吉田 姫渚

毎日ね歩いてるよ雨の中梅雨があげたら夏のはじまり

群馬県太田市立木崎中学校 2年 山田 蒼真

散歩中常に手元に数歩計数を見ながら再び一歩

群馬県太田市立木崎中学校 2年 井上 脩

横須賀の街を歩くよ探険だすみわたる海横須賀の海

群馬県太田市立木崎中学校 2年 秋澤 壮馬

冬の朝雪降る外を出歩いて一人寂しく静かに散歩

群馬県太田市立木崎中学校 2年 高木 裕照

歩きだせ今より前に進むんだ止まるな自分進み続ける

群馬県太田市立木崎中学校 2年 高橋 舞衣

この先の未来を共に歩むみんなに届け友情の輪よ

群馬県太田市立木崎中学校 2年 五十嵐 唯

歩いてく平和や希望のその先へ平和や希望いつまで続く

群馬県太田市立木崎中学校 2年 五十嵐 唯

歩いてく過去ではなくて未来へと向かう先には楽しい夢が

群馬県太田市立木崎中学校 2年 深須 玲菜

散歩してたくさん歩き気づいてく良い場所見つけ喜び感じ

群馬県太田市立木崎中学校 2年 深須 玲菜

歩も成れば金と同等弱くても必ずできる下克上

群馬県太田市立木崎中学校 2年 荒井 優翔

未来先知らぬあの人出会うため想いはずませあなたと歩む

群馬県太田市立木崎中学校 2年 山川 風歌

我は今未来羽ばたく若者に明日を託して天へと歩

群馬県太田市立木崎中学校 2年 浅海 優斗

冬の夜一人ゆつくり歩いてる寒い冬の森の近くで

群馬県太田市立木崎中学校 2年 佐藤 愛緒

夏の夜二人楽しく歩いているとも楽しく花火見ながら

群馬県太田市立木崎中学校 2年 佐藤 愛緒

春の朝みんな楽しく歩いているあたたかい春の花見の場所

群馬県太田市立木崎中学校 2年 佐藤 愛緒

秋の夜二人楽しく歩いているともきれいなこうよう見て

群馬県太田市立木崎中学校 2年 佐藤 愛緒

雨の日に二人楽しく歩いているともきれいなあじさいのそば

群馬県太田市立木崎中学校 2年 佐藤 愛緒

しよぎの歩前だけに進む奴だけど色々やくだつしよぎな奴

群馬県太田市立木崎中学校 2年 嶋田 洸

山道で踏み外さまいと前歩くゆつくりすぎてまったく進まず
群馬県太田市立木崎中学校 2年 嶋田 洸

帰り道疲れた足でのぼる道歩くことほど疲れることはない
群馬県太田市立木崎中学校 2年 山崎 望生

歩みゆく前代未聞の惑星へ次は火星に移り住むのか
群馬県太田市立木崎中学校 2年 石橋 直稀

つき進む天まで続く二人だけ歩幅を合せのぼり続ける
群馬県太田市立木崎中学校 2年 阪下 愛純美

出会った日ビビッときたよ恋の予感一生隣で手つなぎ歩く
群馬県太田市立木崎中学校 2年 阪下 愛純美

梅雨の時期顔からしたる汗と水それでも私歩いていたい
群馬県太田市立木崎中学校 2年 阪下 愛純美

歩くのは足がつかれるそんなとき自動車つかう文明のりき
群馬県太田市立木崎中学校 2年 今野 絆

今の私輝け羽けどこまでも歩んでいこう私の私に
群馬県太田市立木崎中学校 2年 田村 妃菜

あの日までコツコツ歩む勉強と志望校まで手を止めない
群馬県太田市立木崎中学校 2年 草間 菜々子

帰り道同じ気持ちで歩き出す頭の中は今の幸せ
群馬県太田市立木崎中学校 2年 原嶋 彩羽

青い空上には虹がかかっている背中を押され一歩踏み出す
群馬県太田市立木崎中学校 2年 下澤 梨瑚

散歩中上を見上げて見える空赤い夕日が顔を見せてる
群馬県太田市立木崎中学校 2年 松永 唯可

人生はゆつくり進む一歩ずつ戻れないのも一つの使命
群馬県太田市立木崎中学校 2年 飯牟礼 集翔

幸せは歩いてこないでも僕はその幸せを歩かせてやる
群馬県太田市立木崎中学校 2年 石井 龍太

夏休み海にむかった久々に海をながめて歩きます
群馬県太田市立木崎中学校 2年 白石 創也

また今日もいつも同じ歩く道変わらないはずだったこの道
群馬県太田市立木崎中学校 2年 市川 花乃子

昨日まで君と一緒に歩いたね遊んだあの日二度と戻らぬ
群馬県太田市立木崎中学校 2年 市川 花乃子

永遠の眠りの道を選んでくサヨナラ告げて別れたかった
群馬県太田市立木崎中学校 2年 市川 花乃子

かささして歩いていたら水たまり映る自分と曇天な空
群馬県太田市立木崎中学校 2年 堀越 姫愛

妹と散歩してたら猫がいて妹の目がキラキラしてた
群馬県太田市立木崎中学校 2年 堀越 姫愛

森の中歩きかんじる響く音ささやく風に鳴くこえともに
群馬県太田市立木崎中学校 2年 倉林 眺大

散歩道見える景色に目が光る美しいもの日本の宝
群馬県太田市立木崎中学校 2年 大塚 望愛

弟と犬との散歩さわやかでいつもたのしくいつものことだ
群馬県太田市立木崎中学校 2年 石塚 優光

歩いてたさんぽをしてて足くじくひどいけがしてびよっくおくり
群馬県太田市立木崎中学校 2年 飛田 翔哉

公園が広がったたすばらしい歩いていくよおじばばと同じ
群馬県太田市立木崎中学校 2年 飛田 翔哉

ミニトマト歩いているときおられるほんのひとにさおられたんだ
群馬県太田市立木崎中学校 2年 飛田 翔哉

あいけんと散歩をするたのしいなゆだんをしたらおしっかかかる
群馬県太田市立木崎中学校 2年 飛田 翔哉

りひちゃんが歩いていてさねんざしてとりっぴぎまあとこいしよう
群馬県太田市立木崎中学校 2年 飛田 翔哉

道草を友達とする静かな日歩いて見れる自然の景色
群馬県太田市立木崎中学校 2年 須藤 千騎

共に行く千里の道も一歩から夢に向かって進め一から
群馬県太田市立木崎中学校 2年 齋藤 海里

大会の会場つくまで徒歩でいき歩いた道路を踏みしめていた
群馬県太田市立木崎中学校 2年 齋藤 海里

歩行者は右側通行自転車は左側通行ルールを守ろう
群馬県太田市立木崎中学校 2年 齋藤 海里

歩きスマホ前方不注意事故注意止まってやるうスマホゲーム
群馬県太田市立木崎中学校 2年 齋藤 海里

散歩中町の変化を楽しんで外出注意紫外線
群馬県太田市立木崎中学校 2年 齋藤 海里

帰り道足を持ち上げ歩いてく一人で歩く家への帰り
群馬県太田市立木崎中学校 2年 早川 昇吾

歩いてく毎日一歩歩いてくいつかはゼロ歩命とどえる
群馬県太田市立木崎中学校 2年 境野 瑠人

草むしり歩くのつらい腰痛い帰ってきたら猫ぜになるよ
群馬県太田市立木崎中学校 2年 境野 瑠人

親の顔初めて歩く自分の子笑顔あふれる成長したね
群馬県太田市立木崎中学校 2年 矢野 禅

コロナ禍で暗い世の中さみしいが未来に向けて歩いていこう
群馬県太田市立木崎中学校 2年 根岸 悠人

うれしいな共に歩んだ帰り道家族みんなを夕日が照らす
群馬県太田市立木崎中学校 2年 関根 凛

水たまり小さなくつが歩くたびしぶきが光り笑顔がキラリ
群馬県太田市立木崎中学校 2年 齊藤 咲

犬の散歩祖父と眺める田んぼ道広がる緑、電車の音
群馬県太田市立木崎中学校 2年 中山 果音

友達といっしょに歩いたこの道は大人になれば小さなかけら
群馬県太田市立木崎中学校 2年 櫻井 侑来

愛犬と一緒に歩いた散歩道時間がたてば思い出の道
群馬県太田市立木崎中学校 2年 室田 瑛太

散歩道色々な景色分かれ道私の中の心の道
群馬県太田市立木崎中学校 2年 内田 実咲希

総体は共に歩んだ先輩と最後の試合ホイッスル鳴る
群馬県太田市立木崎中学校 2年 尾島 菜摘

夕飯後家族みんなで散歩行き星空見上げユーホー探し
群馬県太田市立木崎中学校 2年 松井 萌々羽

勉強をするたびいつも考える高校受験へ一歩踏み出す。
群馬県太田市立木崎中学校 2年 黒田 莉夢

お父さんが持ち歩いてる歩数計目標まではもう少しだね。
群馬県太田市立木崎中学校 2年 黒田 莉夢

リラックス家族みんなでお散歩だ家族みんなの心は一つ
群馬県太田市立木崎中学校 2年 黒田 莉夢

散歩道いつもとかわらぬ道なのに今日は少しあたたかいかな
埼玉県所沢市立小手指中学校 2年 里麻 晴仁

みなかみの自然と共に今を歩む明るい未来美しい町へ
群馬県みなかみ町立月夜野中学校 3年 篠田 美空

歩んできた小さな道の足跡が困る人々の道標となる
群馬県みなかみ町立月夜野中学校 1年 飯島 陽心

友達と部活に急ぎ速歩き焦りもあるが楽しさもある
群馬県みなかみ町立月夜野中学校 2年 原澤 歩夢

渡れた時がらばる 一歩で歩きだそう晴れの日でも雨の日でも

群馬県みなかみ町立月夜野中学校 2年 今井 叶輝

落ちてくる必死に追いかけ全力で苦しい辛い最後の一步

群馬県みなかみ町立月夜野中学校 2年 小野 耀也

弱くても詰められるよに成れるよに少しでも進む歩の駒のよに

群馬県みなかみ町立月夜野中学校 2年 原 慧周

成れるよに詰められるよに弱くても歩の駒のよに進めよすめ

群馬県みなかみ町立月夜野中学校 2年 原 慧周

テスト終わり心が淀んでお散歩に天気も淀んでダブルアウト

群馬県みなかみ町立月夜野中学校 2年 阿部 千穂

犬の散歩走って疲れるけど楽しい犬も一緒楽しい思い

群馬県みなかみ町立月夜野中学校 2年 芳澤 紗津姫

歩いていると自然を感じる全身で心地よい風やあたたかい光

群馬県みなかみ町立月夜野中学校 3年 高橋 佑衣

木漏れ日の差し込む小道歩きたび好きになつてく我が古里よ

群馬県みなかみ町立月夜野中学校 3年 山本 咲希

歩み寄る心と心助け合い人への感謝忘れずに

群馬県みなかみ町立月夜野中学校 3年 佐藤 裕規奈

まぶしさに見上げてみれば青空の一人で歩く家までの道

群馬県みなかみ町立月夜野中学校 3年 小松 湊望

歩いてみずつと続いてくこの町の緑際立つ豊かな自然

群馬県みなかみ町立月夜野中学校 3年 平井 月南

登下校友と話して歩く道足どり軽くだこ楽しい

群馬県みなかみ町立月夜野中学校 3年 新井 柁善

受験とは一歩一歩とゆく坂道だ努力をすれば合格かなう

群馬県みなかみ町立月夜野中学校 3年 今井 快史

通学路春夏秋冬なにげなく友と歩いた思い出の道

群馬県みなかみ町立月夜野中学校 3年 鈴木 愛梨

夏の夜歩く足をそつと止め見上げて見れば輝く星空

群馬県みなかみ町立月夜野中学校 3年 高橋 愛音夢

山道を歩き疲れて立ち止まりふと見た道に小さな雑草

群馬県みなかみ町立月夜野中学校 3年 諸星 愛瞳

虹の橋妖精渡る空の上七色の星勇気の一步

群馬県みなかみ町立月夜野中学校 3年 原澤 夢奈

久しぶり中学校へ歩みよなつかしき友の一喜一憂

群馬県みなかみ町立月夜野中学校 3年 関 琉翔

頑張りと努力が実つた県大会皆の力で進めた一歩

群馬県みなかみ町立月夜野中学校 3年 高橋 美紀

人生は迷う暇ない歩くだけ

群馬県みなかみ町立月夜野中学校 3年 石坂 颯我

明日から健康思つて歩きます

群馬県みなかみ町立月夜野中学校 3年 石坂 颯我

みなかみを歩いて周り見た風景心へのこり思い出となる

群馬県みなかみ町立月夜野中学校 3年 矢野 夏希

少しずつ夢に向かつて立ち向い進歩あるのみ実現させよ

群馬県みなかみ町立月夜野中学校 3年 高橋 涼

太陽と仲良くなるため歩行虫は飛べない羽を光らせている

山口県光市立光井小学校 5年 横道 玄

部活行進演奏しながら歩いてく青春なんだとグラウンド回る

山口県光市立光井中学校 1年 庄司 彩香

こびとになり学校中を散歩する腰抜けるほど大きいだろう

山口県光市立光井中学校 2年 市川 芽衣

両親とこれまで一緒に歩んできたここからは一人進みゆく道

山口県光市立光井中学校 3年 多田 妃葵

自立して新しい道を行んでく小年の背は大きく広い

群馬県みなかみ町立水上市中学校 1年 石井 蒼泰

夏の日におじいちゃん家で将棋をし勝負の勝敗歩で決まる

群馬県みなかみ町立水上市中学校 1年 小倉 太志

みなかみは自然と共に歩むまち愛し敬い活かすまち

群馬県みなかみ町立水上市中学校 1年 富沢 優作

利根川の雪解け水と歩んでく険しくもゆつくりゆつくり

群馬県みなかみ町立水上市中学校 1年 中村 真翔

夏の日木の下歩き陰見つけ木陰の下で水分補給

群馬県みなかみ町立水上市中学校 1年 山田 哲平

夏の日外を散歩し汗をかき家に帰れば涼しいエアコン

群馬県みなかみ町立水上市中学校 1年 山田 哲平

高校生まだまだ今は夢の中歩む先にはいざれ訪れる

群馬県みなかみ町立水上市中学校 2年 木村 純一郎

歩みどきそれまちわびるテスト期間勉強はまだ進んでいない

群馬県みなかみ町立水上市中学校 2年 木村 純一郎

人生は毎日いつでも壁があり歩むべき道に迷い生じる

群馬県みなかみ町立水上市中学校 2年 木村 純一郎

コロナ禍の暗くて長いトンネルも歩けばいつかは抜けられる

群馬県みなかみ町立水上市中学校 2年 関 大地

夏の夜星を見ながら歩いてくしずかな夜に響く虫の声

群馬県みなかみ町立水上市中学校 2年 阿部 由菜

いつのまに背をこしそうな妹の歩む姿に少しさびしい

群馬県みなかみ町立水上市中学校 2年 加藤 珠美

歩むなら自分の道へつっぱしれそこには何が待っているのか

群馬県みなかみ町立水上市中学校 2年 久保 若葉

くもりでもあなたと歩くこの道は晴れるときより気分が上がる

群馬県みなかみ町立水上市中学校 2年 齋藤 美来

夏が来た明るい空と川の音今日は家でてお散歩しよう

群馬県みなかみ町立水上市中学校 2年 齋藤 美来

夕方のお散歩終わり帰えらんと玄関前で拒むうちの犬

群馬県みなかみ町立水上市中学校 2年 田村 つぐみ

雨の日はテンション下がるよいやだなあ早く晴れたら散歩したいな

群馬県みなかみ町立水上市中学校 2年 田村 つぐみ

歩んでく自分の夢へと歩んでく日頃努力かかきずに

群馬県みなかみ町立水上市中学校 3年 阿部 颯晟

のろのろと葉っぱを歩くカタツムリ殻に水滴光つてる

群馬県みなかみ町立水上市中学校 3年 阿部 颯晟

山の中歩いてく鳥の声あなたの場所は何の声

群馬県みなかみ町立水上市中学校 3年 阿部 颯晟

久しぶりふだん歩かない通学路あつた家がなくなつてく

群馬県みなかみ町立水上市中学校 3年 梅津 陸

放課後にいつもの道を友達とどんちゃんさわぎで歩いてく

群馬県みなかみ町立水上市中学校 3年 小林 侑生

みなかみを歩いて分かる美しさ僕の故郷自然が自慢

群馬県みなかみ町立水上市中学校 3年 佐々木 幹仁

たちねの母と歩いた遊歩道紅葉と共に積もる思ひで

群馬県みなかみ町立水上市中学校 3年 高橋 昌稔

歩をさして駒を取り合つた僕と父ときの思い出今や棚の中

群馬県みなかみ町立水上市中学校 3年 高橋 昌稔

山の中歩いていたら鳥の声私と鳥がつうじあう

群馬県みなかみ町立水上市中学校 3年 トランシ(論ツ)ユ

夏休み外でお散歩楽しいな家にかえればすずしいクーラー

群馬県みなかみ町立水上市中学校 3年 松本 龍之介

秋の日のつめたい風がほおをさす一人て歩くさびしき道

群馬県みなかみ町立水上中学校 3年 佐藤 咲綾

最悪な状態だけど前を向き明日へむかつて歩きだす

群馬県みなかみ町立水上中学校 3年 佐藤 咲綾

歩きたび雨がしみる靴の中姉の持つ傘しずくがたれる

群馬県みなかみ町立水上中学校 3年 野村 麗

秋の夜外を歩けば聞こえるよ昆虫たちの心の嘆き

群馬県立沼田高等学校 1年 元宿 響

学校を終えて帰路を友達と歩いて楽し別れがたい

群馬県立沼田高等学校 1年 田村 流聖

だんだんと気温の下がる通学路寒空の下足早に歩く

群馬県立沼田高等学校 1年 金川 知広

歩めればいつか必ずたどり着く僕の求める素晴らしき夢

群馬県立沼田高等学校 1年 片野 通斗

強い男には賢い女性がいる見合ったため険しい道を歩み強くなり続ける

群馬県立沼田高等学校 1年 飯塚 亮太

失敗しても起き上がり進むなげならば夢への道を歩く一歩になるから

群馬県立沼田高等学校 1年 飯塚 亮太

一歩目を踏み出すことに意味があるそんなことも知らずに進む

群馬県立沼田高等学校 1年 林 竜次

先生の歩みを聞いて僕は思う授業がこれから始まるなあ

群馬県立沼田高等学校 1年 林 竜次

積もる雪初めて踏み入る足跡はいくど歩けど辺りは真っ白

群馬県立沼田高等学校 1年 富澤 仁翔

いざ歩かん何事においても踏みだそう己を鍛える第一歩

群馬県立沼田高等学校 1年 星野 晴日

左右見てゆつくり前に歩いてゆけば長い道のりの糧となる

群馬県立沼田高等学校 1年 佐藤 心音

何事も初めの一歩踏み出せばまだ見ぬ世界見つかるのかな

群馬県立沼田高等学校 1年 阿部 大翔

高校生悩みながらも前を向き自分の進路へと歩いてく

群馬県立沼田高等学校 1年 原澤 淳朗

日本一目指して歩く沼田の地踏み出す一歩決死の一本

群馬県立沼田高等学校 1年 富澤 魁

霜の音はしゃぐカッパルとつながる手の後ろ歩く私の気持ちよ

群馬県立沼田高等学校 1年 桐澤 佳大

夜の中で一人で貧しく生きてきた我は歩くよ始まりの地へ

群馬県立沼田高等学校 1年 小野 優太

一林の秋の思い出されるあの時を散歩しながらごきぎゆうする

群馬県立沼田高等学校 1年 小野 優太

兄弟で散歩しながら語り合う紅葉の中で水上の

群馬県立沼田高等学校 1年 綿貫 心大

冬の夜君と出歩く山の上君に初めて恋した場所

群馬県立沼田高等学校 1年 星野 太鷲

この出会い歩いていくよ思い出とともに過ごした楽しい日々を

群馬県立沼田高等学校 1年 山本 夢翔

つらくても日進月歩する今日もそうすればきつと光が見えるでしょう

群馬県立沼田高等学校 1年 朝野 流星

歩みゆく桜舞い散る空のもと花びら伝えるあの日のぬくもり

群馬県立沼田高等学校 1年 清水 朝光

夜の町憧れを持ち踏み出すと酔歩現れ怒りを覚える

群馬県立沼田高等学校 1年 阿部 桔平

月夜野を歩いてみたら山だらけそんなところも俺は好きだぜ

群馬県立沼田高等学校 1年 倉澤 樹輝

山登り頂上めざし歩いてく石場石場で長き道のり

群馬県立沼田高等学校 1年 阿部 伊吹

みなかみ町歩いて楽しむみなかみえき

群馬県立沼田高等学校 1年 小林 青聖

冬の暮一人で歩き冬の旅温泉めぐりて海の幸食べる

群馬県立沼田高等学校 1年 根岸 知哉

山の中いちようやもみじ歩くと下に落ちている秋のぬくもり

群馬県立沼田高等学校 1年 靄岡 友哉

脇道に枯れ葉動くと思えば足元歩く蟻の行列

群馬県立沼田高等学校 1年 靄岡 友哉

道路の脇ハーフマラソン先行くみんなと一人ぼつちな自分

群馬県立沼田高等学校 1年 靄岡 友哉

散歩道何も考えずに帰路につき感じたものは寒さと悲しさ

群馬県立沼田高等学校 1年 森田 悠聖

秋の夜すずしげな道虫の音が歩いているよと話しかける

群馬県立沼田高等学校 1年 松井 凌大

つらかったこの1年はだがしかしまた明日は来るみな歩んでく

群馬県立沼田高等学校 1年 戸丸 晶人

みなかみ町歩いて眺めて美しく白く輝く谷川岳

群馬県立沼田高等学校 1年 原 由羽

駒の音響く教室秋雨の歩兵進みて戦い続く

群馬県立沼田高等学校 1年 角田 慎太郎

みなかみ町でハーフマラソン歩くことなく走り続けたら良い景色

群馬県立沼田高等学校 1年 林 流冬

散歩して近所の色々気がついた昔の思い出穴場スポーツ

群馬県立沼田高等学校 1年 吉野 蓮治

秋の朝散歩してたら気付いた冬の便り谷川岳の雪

群馬県立沼田高等学校 1年 相澤 天希

時間過ぎて歩んだ道を振り返る失敗学ぶ成功の鍵

群馬県立沼田高等学校 1年 米田 海渡

外に出て歩いてみれば葉が落ちて冬の訪れ感じる季節

群馬県立沼田高等学校 1年 島田 大輝

迷ったらいかなる時も前を見て歩みを止めず進み続ける

群馬県立沼田高等学校 1年 木内 万裕

考えを巡らせ短歌作るけど上手く歩まぬペンの先かな

群馬県立沼田高等学校 1年 星野 温樹

夏の夜寝苦しさに目が覚めて夜道を歩き涼やかな

群馬県立沼田高等学校 1年 座木 静流

毎日の歩き慣れた通学路もうあの日から変わった景色

群馬県立沼田高等学校 1年 川田 樹

車窓のめぐる風景歩く人君を見つけて喜ぶ私

群馬県立沼田高等学校 1年 阿部 拓真

巨木に電飾からめるその足の歩幅の中に楽天地あり

群馬県立沼田高等学校 1年 塩沢 祐貴

たとへ身は部屋の宙に朽ちぬとも志こそ歩み続けり

群馬県立沼田高等学校 1年 千輝 鷹平

寒い朝歩つて登校とてもきつい手もかじかんでめっちゃかゆい

群馬県立沼田高等学校 1年 金子 善

今までで何度も歩いたあの道が今ではいと懐かしきかな

群馬県立沼田高等学校 1年 本多 柊翔

歩こうと外を見上げて目標を道理の先端まだ見えへんかな

群馬県立沼田高等学校 1年 八高 蓮

散歩中降り注いでいく白い雪だんだん消えゆく犬の足跡

群馬県立沼田高等学校 1年 須田 竜乃介

秋の夜寒さ厳しい帰宅道歩きながらも英単語帳

群馬県立沼田高等学校 1年 遠藤 寛大

休みなし歩くだけでもおろおろとナメクジにすら負かされる脚

群馬県立沼田高等学校 1年 遠藤 寛大

寒い朝歩いて向かう目的地結構遠い帰りたい

群馬県立沼田高等学校 1年 星野 琉聖

歩だけでは果たすことのできない下克上然れど協力すれば・・・

群馬県立沼田高等学校 1年 森下 諒司

部活後に疲れているのに歩いてく沼田駅までの真つ暗道

群馬県立沼田高等学校 1年 森下 諒司

はと時計決まった時刻に前に出る朝でも夜でも歩つ歩くとなく

群馬県立沼田高等学校 1年 萩原 心輝

呼子鳥故郷を思い一人泣く夕日が沈む歩き始める

群馬県立沼田高等学校 1年 川端 清矢

白根山オールウェイズすばらしい散歩におすすめ群馬の白根

群馬県立沼田高等学校 1年 星野 瑛糸

夏休み最後の夜に思い出す歩く音とふうりんの音

群馬県立沼田高等学校 1年 角田 唯斗

我歩む田のあぜ道は生き物の声と緑が豊かなる場所

群馬県立沼田高等学校 1年 栗原 晋作

友達と一緒に歩く帰り道紅葉輝く秋の夕日

群馬県立沼田高等学校 1年 高柳 祥弘

ここまでの歩んできた道糧にして今日も一歩を踏み出そう

群馬県立沼田高等学校 1年 小林 響

雨の日は歩いて行くのが大変ではやく学校終わってほしい

群馬県立沼田高等学校 1年 木村 幸祐

歩くほどすり減ってゆく靴底の示す増してゆく友との思ひ出

群馬県立沼田高等学校 1年 石田 遥風

谷川岳の白く染まったその道筋を楽しみながら尾根歩きをする

群馬県立沼田高等学校 1年 宇敷 拓人

止まらない時の流れとぼくの足明るい未来歩むために

群馬県立沼田高等学校 1年 小野 愛翔

暗い部屋見渡す限り深い闇歩いて開けた窓からの光

群馬県立沼田高等学校 1年 岸野 智也

谷川の峰連なりて秋風ぞ吹く歩み進める後ろ髪

群馬県立沼田高等学校 1年 北山 桂月

道歩く朝もやかかる晩秋の山気車の窓から友見えるかな

群馬県立沼田高等学校 1年 北山 桂月

みえなくてなく泣く歩くかえり道みたかったのはよるの星かな

群馬県立沼田高等学校 1年 クレイグ翔音

ああまただまた始まった週明けの重い足どり進まぬ歩み

群馬県立沼田高等学校 1年 クレイグ翔音

週明けの学びの園への我が歩み憂鬱感じ気も進まず

群馬県立沼田高等学校 1年 小山 陽大

息上がり足もつかれ歩きたいでも抜かされたくない後ろのあいつ

群馬県立沼田高等学校 1年 佐々木 大

恋人に歩みを合わせる紳士ぶり追いぬかされて悲しい気持ち

群馬県立沼田高等学校 1年 佐々木 大

寒い冬身も心もひえ震えるが君と歩けば温かくなりうる

群馬県立沼田高等学校 1年 清水 龍斗

振り向かず歩みを止めずに行く道は己が信じる希望への道

群馬県立沼田高等学校 1年 末永 佳威

行き詰まり思い悩んで決断しくり出したのはまさかの二歩

群馬県立沼田高等学校 1年 末永 佳威

負けた後見つめる空とグラウンドそれはたしかに歩んできた道

群馬県立沼田高等学校 1年 末永 佳威

先生に呼び出しくらくら昼休み階段が一段が重い

群馬県立沼田高等学校 1年 鈴木 勘太

歩いても駆けても終わらず歩をとめてしばし没入す榛名の神秘に

群馬県立沼田高等学校 1年 鈴木 聖人

王金銀桂歩香角飛伊藤流将棋する上この上はなし

群馬県立沼田高等学校 1年 須田 凱斗

漫歩する休日の昼彷徨って子供の思い出湧く高揚感

群馬県立沼田高等学校 1年 武井 浩介

いつまでも先のわからぬ続く道歩む道はまだ始まったばかり

群馬県立沼田高等学校 1年 堤 高晴

歩み出す目的地へと踏みしめて一歩一歩と歩幅の分だけ

群馬県立沼田高等学校 1年 鶴田 佑海

秋日の青天仰ぎ我願う先の歩みが晴れんことを

群馬県立沼田高等学校 1年 都所 胡太

宵の口裏から迫る暗がり避けるがごとく歩み始める

群馬県立沼田高等学校 1年 都所 胡太

われ歩く歩くよ歩く永遠に歩くよ歩くわれ歩けぬ

群馬県立沼田高等学校 1年 白 智宇

いつまでもそこにたどれぬ冬山に歩みを止めぬ永遠に歩く

群馬県立沼田高等学校 1年 白 智宇

一歩ずつ山あり谷あり進んでく人生と言う名の物語

群馬県立沼田高等学校 1年 長谷川 純汰

田園を一人歩いて思い出す夕日へ笑う途方もない道

群馬県立沼田高等学校 1年 星野 光河

世の中を歩きめぐりてどこ行けど百年経てば土の中

群馬県立沼田高等学校 1年 宮田 慈英久

時は歩みほこりかぶった教室でも思い出は鳴くチャイムの声

群馬県立沼田高等学校 1年 宮田 慈英久

いつまでも歩き続ける旅よりも寄り道しながらする旅が良し

群馬県立沼田高等学校 1年 宮本 漣

歩み寄り握る冷たい君の手をまだ雪降らぬ十二月の朝

群馬県立沼田高等学校 1年 山田 卓磨

一歩進む心の強さと一歩引く心の警戒友情では欠かさない

群馬県立利根実業高等学校 1年 高橋 小百合

夜の道一人歩くの怖いけど冬の夜空は星がきれい

群馬県立利根実業高等学校 1年 山崎 愛羅

手繋ぎ歩幅合わず急ぎ足今では「おそいよ」声かける

群馬県立利根実業高等学校 1年 中村 依奈

冬になり外をみてみれば小米雪日々の散歩も心がはずむ

群馬県立利根実業高等学校 1年 中嶋 莉那

バレーボールアニメのおかげで一歩踏み出し上手くなるため日々自主練

群馬県立利根実業高等学校 1年 後閑 紅雅

最後までボール追いかけて一歩出すつないだボールが勝利につながる

群馬県立利根実業高等学校 1年 竹内 夢愛

寒空や肩を並べて一歩二歩無数の光に無数の夢が

群馬県立利根実業高等学校 1年 松井 美瑠

風涼し思い出すはあの景色母と歩んだ緑の野原

群馬県立利根実業高等学校 1年 小宮 羽菜

歩が小さく描くも弾くもできずとも自ら苦手を突破するのだ

群馬県立利根実業高等学校 1年 井上 和仁

寒い夜夜道をさんぽ白息はやくはやくと歩く坂道

群馬県立利根実業高等学校 1年 堀江 紅留未

妹のつきそいでいったパン屋さんやついでいなくてとぼとぼ歩く
群馬県立利根実業高等学校 1年 堀江 紅留未

少しだけできないことができた進歩したことにごい喜ぶ
群馬県立利根実業高等学校 1年 堀江 紅留未

大好きな友だちと帰るこの道も一歩歩けばそれは思い出
群馬県立利根実業高等学校 1年 関根 百合音

点取られ取られに取られ抑えられまずは一歩歩かず走る
群馬県立利根実業高等学校 1年 小林 幸聖

歩いて足跡すらも残せずに自分にはまだなにもないのだ
群馬県立利根実業高等学校 1年 和南城 夢羽

登り坂吐く息白くすきとおる歩けば吹く風冬のおいかな
群馬県立利根実業高等学校 1年 堀江 心

リード付け早く歩くと君の目が朱を反射し鳴る五時の鐘
群馬県立利根実業高等学校 1年 鈴木 溜奈

歩を進め向かい風我通り過ぎ鼻をかすめる秋のおいだ
群馬県立利根実業高等学校 1年 生方 翔子

歩んでも届かぬ人は月のよう見上げた空も愛しく思ふ
群馬県立利根実業高等学校 1年 野上 夢奈

友見つけ歩くスピード早くなり必死に追いつき交わしたおはよ
群馬県立利根実業高等学校 1年 齋藤 舞

気がつくときそばにいるけど話せない歩き止まり見た彼女の笑顔
群馬県立利根実業高等学校 1年 町田 ちなみ

帰り道歩みをとめて空見ればきれいな虹が青を切る
群馬県立利根実業高等学校 1年 林 歩未

木枯らしに二人は歩く早足に笑顔の君の赤い鼻かな
群馬県立利根実業高等学校 1年 平澤 月華

「寒い寒い」スカートはいて歩く道こんな青春今しかできない
群馬県立利根実業高等学校 1年 平澤 月華

歩みよる小さな路地に黒い猫いつものようにミルクを持って
群馬県立利根実業高等学校 1年 宮川 学徒

歩を止めて耳傾けて耳澄ます鳥の囀り風の音
群馬県立利根実業高等学校 1年 宮川 学徒

肌寒い風が吹くなか歩いてる静かななかにひびく足音
群馬県立利根実業高等学校 1年 佐々木 凛

失敗を得てして学ぶことがあるそれをいかして進歩のからに
群馬県立利根実業高等学校 1年 佐々木 凛

帰り道並んで歩いた小さな足私のクロはどこにいったか
群馬県立利根実業高等学校 1年 武井 杏樹

散歩道ひまわりの列種いっぱいハムスターなら天国のかな
群馬県立利根実業高等学校 1年 武井 杏樹

歩道橋最後の一段飛び降りて広がる夕やけ弾む心
群馬県立利根実業高等学校 1年 片桐 香菜

アルバムを開くといつも想うこと家族の愛と私の歩み
群馬県立利根実業高等学校 1年 片桐 香菜

君と歩いた浜辺には思い出だけが残ってる
群馬県立利根実業高等学校 1年 桑原 凛

利根実で未来に向かって歩む日々この日常はいつまで続く
群馬県立利根実業高等学校 1年 宮内 光里

散歩中景色を見て思うのは季節の始終を感じさせる
群馬県立利根実業高等学校 1年 松井 悠希

歩む道困難なことあるけれど迷わず進め前を見ながら
群馬県立利根実業高等学校 1年 近藤 瑞乃

帰り道降りだす雨にせかされて歩みを止めず家へと向う
群馬県立利根実業高等学校 1年 須田 茉綾

慌しい雰囲気漂う緊張感と勝歩ありけり
群馬県立利根実業高等学校 1年 桑原 葉月

散歩道いつもと同じ場所だけど心情変われば景色も変わる
群馬県立利根実業高等学校 1年 高橋 慧太

君と歩いた河岸を一人歩いては夕日が沈む
群馬県立利根実業高等学校 1年 高橋 沙和

夏祭り今年も無かったこの通り祭りがあれば歩行者天国
群馬県立利根実業高等学校 1年 吉野 源希

帰り道話しかけても返答なし友達二人歩きスマホ
群馬県立利根実業高等学校 1年 吉野 源希

考えるうちに気付いた足りぬ駒一歩とどかず伝える勇氣
群馬県立利根実業高等学校 1年 吉田 宗太

涙落ち気づけばふるえる君の肩そと背中に我歩み寄る
群馬県立利根実業高等学校 1年 秋元 はな

雪の中毎年歩くこの道は一面に白く砂糖のようだ
群馬県立利根実業高等学校 1年 秋元 はな

怖い夜一人で歩むその道もおかあさんの静けさには負ける
群馬県立利根実業高等学校 1年 青木 柚子

歩こうと歌う幼児の笑い声聞いていたいが遅刻寸前
群馬県立利根実業高等学校 1年 井上 結愛

雪の上父親と歩く弟の足跡小さく愛おしい
群馬県立利根実業高等学校 1年 入澤 心

受験前テスト仲間と挑む夏共に歩もうてっぺん目指し
群馬県立利根実業高等学校 1年 大坪 由里菜

あと一歩君におはよう声がでず距離は近いが想いは遠し
群馬県立利根実業高等学校 1年 金井 由美

桜の木思い出す春桜舞う四月始まりまた歩きだす
群馬県立利根実業高等学校 1年 倉品 肖那

駅からの歩く道のりつらくても着いてしまえば楽しい学校
群馬県立利根実業高等学校 1年 小池 蒼空

暖かい秋の夕暮れ虫の音に誘われ歩く紅葉の床を
群馬県立利根実業高等学校 1年 小菅 杏佳

山々が赤や黄色に染まる中車をおりて歩きたくなる
群馬県立利根実業高等学校 1年 後藤 陽香

約束とともに歩くと言ったのに前を行く君涙こぼれる
群馬県立利根実業高等学校 1年 小林 千夏

バス時刻間に合わないと分かっても早く早くと早歩きする
群馬県立利根実業高等学校 1年 志賀 香音

人生はどんな事にもチャレンジだうしろは向かず前見て歩む
群馬県立利根実業高等学校 1年 関 優輝

帰り道彼と歩く寒い冬手を繋いで顔熱くなる
群馬県立利根実業高等学校 1年 高橋 美来

怖がりな僕の手のつなぎ散歩するおどかさ君はまるで小悪魔
群馬県立利根実業高等学校 1年 田村 愛花

重すぎる人生のような坂道もあなたといれば歩んで行ける
群馬県立利根実業高等学校 1年 千明 批愛

一歩二歩先行くあの子追いかけて今日も愉快なおにごっこかな
群馬県立利根実業高等学校 1年 千明 実生

伝えたい君と過ごしたあの日々を一步踏み出せ不器用な恋
群馬県立利根実業高等学校 1年 角田 佳奏

歩くとき一歩一歩を大切にけがしないこと自分大切
群馬県立利根実業高等学校 1年 戸川 翔

懐かしき横断歩道で思い出す友達とした白線ゲーム
群馬県立利根実業高等学校 1年 戸山 春和

愛犬の散歩にでかける午後8時貴方もそろそろおばあちゃんですね

群馬県立利根実業高等学校 1年 中澤 夢

帰り道知らない道を行ってみた不安をいだきまた歩き出す

群馬県立利根実業高等学校 1年 中村 海斗

登校中歩道に雪の足あとアート変える頃には消えてしまうの

群馬県立利根実業高等学校 1年 南雲 彩香

旅に出て歩き疲れて一夜宿女将の顔が忘れられない

群馬県立利根実業高等学校 1年 福井 春

歩き出せそして止まれと信号機私の恋にも急ブレーキか

群馬県立利根実業高等学校 1年 古谷 仁奈

白い道がに股の足二度踏めば歩く先には父の広き背

群馬県立利根実業高等学校 1年 増田 鈴世

歩む道人それぞれの個性あり挑戦こそ輝く未来

群馬県立利根実業高等学校 1年 町田 まなみ

帰り道となり歩き影が無く思えば雪こそぼれる

群馬県立利根実業高等学校 1年 松井 紫音

我が人生王じゃなくても歩でもいい進み続けてと金と成れ

群馬県立利根実業高等学校 1年 松井 成歩

夜の道暗闇歩き分かれ道どちらに行くも目的同じ

群馬県立利根実業高等学校 1年 村田 瑛音

大会で一步一步を大切に協力し合い目指せば優勝

群馬県立利根実業高等学校 1年 諸田 はるな

愛犬あずきの尻をおいかけ歩きだす年上なのになんて速さだ

群馬県立利根実業高等学校 1年 八木 里実

「この映画春になった見に行こう」それまで君の隣歩きたい

群馬県立利根実業高等学校 1年 山崎 日瑠里

手を繋ぎ歩み進める老夫婦「ああんりたいね」とあなたが笑う

群馬県立利根実業高等学校 1年 山崎 日瑠里

「あそこまで歩こう」と差す君の手を取って絡める指の先かな

群馬県立利根実業高等学校 1年 山崎 日瑠里

「私のことほんとに好き？」不安な君に合わせてゆつくり歩く

群馬県立利根実業高等学校 1年 山崎 日瑠里

人生は歩み進める物語やらぬ後悔やる後悔を

群馬県立利根実業高等学校 1年 山崎 龍誠

校門に一步入れば勇気あり止まっていれば成長せず

群馬県立利根実業高等学校 1年 吉池 輝波

歩のように前進あるのみその先でやがては僕も金に成るため

群馬県立利根実業高等学校 1年 石田 隆一

歩く君の背に重なったあの火花世界で一番大きく見えた

群馬県立利根実業高等学校 1年 井上 太貴

冬の夜君が寒いと言ったから歩く君の手を握りしめた

群馬県立利根実業高等学校 1年 井上 太貴

虹見つけふもとをゆびさし歩く子は宝を夢見て母の手を引く

群馬県立利根実業高等学校 1年 宇敷 怜奈

歩きつつ月を見ながら考えるきれいと言ったら君なに思う

群馬県立利根実業高等学校 1年 小野 龍星

皆違う道を歩くを面白く見るの面白いが僕は僕の道

群馬県立利根実業高等学校 1年 加藤 大雅

夏の夜空には火花打ちあがり今か今かと歩き待ちつつ

群馬県立利根実業高等学校 1年 河合 蒼太

墨の手を洗う間もなく先歩く姉の姿に心落ち着く

群馬県立利根実業高等学校 1年 河合 悠真

白い月ふるえる足をふみしめて歩みはとめぬ今日は木曜

群馬県立利根実業高等学校 1年 郷原 涼輝

楽な道時には歩むけもの道どんな道でも僕の人生

群馬県立利根実業高等学校 1年 塩原 佑弦

後ろ見ず一步一步と進む道明るい未来が待っているから

群馬県立利根実業高等学校 1年 曾田 光流

けわ道を歩いた先に照らされる私の高校利根実業

群馬県立利根実業高等学校 1年 高井 煌晟

咲きほこる花のかおりと運動会歩いた先にキンモクセイ

群馬県立利根実業高等学校 1年 高井 煌晟

夢やぶれ悔しさ漂う影ひとつ歩く止まるを繰り返しけり

群馬県立利根実業高等学校 1年 仲澤 由依

外に出て歩く気分もありはせん夏を理由に惰眠をむさぼる

群馬県立利根実業高等学校 1年 橋壁 昊

將軍を強し偉しと讃えども歩兵無くして勝機は見えず

群馬県立利根実業高等学校 1年 原 装登理

暑い中散歩をしたら熱中症防止するには水分補給

群馬県立利根実業高等学校 1年 原 悠也

夜の小道どこか儂く気持ちよく家まで歩むこの蟠り

群馬県立利根実業高等学校 1年 廣橋 杏馬

歩み寄る二人の空で輝やくは二人の音を表す火花か

群馬県立利根実業高等学校 1年 水尻 和吹

一歩ずつ歩み続ける夏の道あそこの夕日が沈みきるまで

群馬県立利根実業高等学校 1年 宮田 翼

息白く紅葉は紅なり秋の道歩けば鳴る葉を聞く帰り道

群馬県立利根実業高等学校 1年 宮田 翼

帰り道路傍の花壇にシクラメンふと立ち止まってまた歩きたす

群馬県立利根実業高等学校 1年 山田 勇心

歩み寄る夏の気配と気だるさを暑さによつて知らされけり

群馬県立利根実業高等学校 1年 我妻 璃一

夕暮れに歩いて聞こえるヒグラシの声近し涼やかな空

群馬県立利根実業高等学校 1年 小林 廉

将来の夢に向かつてこの一步未来のために大事な一步

群馬県立利根実業高等学校 1年 佐々木 大河

一歩ずつ進んでいけばたどりつく明るい明日へさあゆかん

群馬県立利根実業高等学校 1年 鈴木 旋瑠

帰り道かけがえのない友達と二人で歩く雨の坂道

群馬県立利根実業高等学校 1年 高橋 友斗

春の日に桜並木の真ん中で二人歩いて未来を創る

群馬県立利根実業高等学校 1年 田村 悠朔

昔から受け断かれていくあの遊び横断歩道の白だけをふむ

群馬県立利根実業高等学校 1年 中島 龍

歩いてくだいだひたすらに我が道を選んでこそ的人生なれば

群馬県立利根実業高等学校 1年 笛木 建佑

これまでの歩んだ道を信じ抜き仲間と共に突き進むのだ

群馬県立利根実業高等学校 1年 水落 多恵

お月様同じ歩幅でついでくる顔合わせれば姿を隠す

群馬県立利根実業高等学校 1年 村上 幸輔

コロナ禍で離れ離れはさびしいよ歩みよりたい心だけでも

群馬県立利根実業高等学校 1年 山之内 知夏

とりあえずあの公園まで歩こうかベンチにすわりためいきをつく

群馬県立利根実業高等学校 1年 吉岡 嗣功

恋人が欲しいとなげく帰り道夜道を一人さびしく歩く

群馬県立利根実業高等学校 1年 吉岡 嗣功

一歩二歩険しい道を進む日々きつと明るい未来があるから

群馬県立利根実業高等学校 1年 田子 竜二郎

歩いてく自分で拓く道だから今その道を広げる時だ

群馬県立利根実業高等学校 1年 川田 伊織

歩いてる君を見ている僕がいる追いかけても尚届かない恋

群馬県立利根実業高等学校 1年 川田 伊織

金沢市ゆっくり歩き見て周るすべての物に歴史を感じる

群馬県立利根実業高等学校 2年 羽賀 太一

思うこと伝えられずに時過ぎる一步踏み出す勇気を今

群馬県立利根実業高等学校 2年 松井 柚奈

通学路吹き込む風に耐えながら手をかじかませ歩き続ける

群馬県立利根実業高等学校 2年 野上 勇気

君歩く道に香りに白い息夜空見上げる影は2つ

群馬県立利根実業高等学校 2年 五馬 玲奈

歩道橋今日も待つかな恋し人冷めた手と手顔赤くなる

群馬県立利根実業高等学校 2年 五馬 玲奈

徒歩の道車じゃ見れない風景が所々に見られるになり

群馬県立利根実業高等学校 2年 石田 将義

助けられ歩いてきた路レール上は自分で創造道を

群馬県立利根実業高等学校 2年 小林 花恋

将来を決断する時岐れ道歩む道に主風両端

群馬県立利根実業高等学校 2年 小林 花恋

北陸の歩いた道は美しく天候雨でも心は晴れた

群馬県立利根実業高等学校 2年 小林 花恋

コロナ禍の犬の散歩は大変だ行く所なく定番コース

群馬県立利根実業高等学校 2年 笠原 瑠々花

リード持ち犬と歩く散歩道歩けどペースかわらず

群馬県立利根実業高等学校 2年 星野 琥太郎

歩くのが嫌いな君も上を見て雨の中でも真っ赤なもみじ

群馬県立利根実業高等学校 2年 井口 玲桜

傘の中寒さに耐えたもういない笑うあの顔同じ歩幅で

群馬県立利根実業高等学校 2年 井口 玲桜

ただ進む思うがままに歩いてくけふはこち明日はあっちへ

群馬県立利根実業高等学校 2年 宮野 まな

雨風を気にせず前に一歩ずつ怖いほど波立つ東尋坊

群馬県立利根実業高等学校 2年 平井 華耶奈

もみじ見て知らない道を歩きつつそれでも楽しい友となら

群馬県立利根実業高等学校 2年 大澤 柚香

きれいだな紅葉の中歩いてる大人たちとね子供たちが

群馬県立利根実業高等学校 2年 佐藤 美希

歩散してみんな仲良笑ってる空の下中はらっぱの中で

群馬県立利根実業高等学校 2年 佐藤 美希

日暮れ時犬の散歩に出かけると帰るころには星空広がる

群馬県立利根実業高等学校 2年 三浦 真綾

雨空は虹をひきたたすスパイスだから虹まで歩んでいこう

群馬県立利根実業高等学校 2年 新木 美夢奈

土砂降りでも最後はきつと虹が出る空を見上げて一歩一歩

群馬県立利根実業高等学校 2年 新木 美夢奈

寒いねと君の背中に歩み寄り心臓の音高ぶっている

群馬県立利根実業高等学校 2年 水越 万葉

上着着て愛犬と行く散歩道耐れず帰る冬の北風

群馬県立利根実業高等学校 2年 藤井 乃々香

狂風に向かい歩む東尋坊まるで海に吸い込まれそう

群馬県立利根実業高等学校 2年 清水 ありさ

冬浅く色づく野山に目をやれば冬へ歩んで葉を落としかける

群馬県立利根実業高等学校 2年 小野 彪雅

寒い中一歩踏みしめ進む道明日もここを歩けるだろうか

群馬県立利根実業高等学校 2年 戸丸 愛斗

歌歌い四人で歩く帰り道この日常が変わらぬように

群馬県立利根実業高等学校 2年 宮田 美咲

少しずつ知らせてくれる紅葉の光の道を今歩き出す

群馬県立利根実業高等学校 2年 須田 蘭

一人だとならぬかなキミと歩くと特別な道

群馬県立利根実業高等学校 2年 横坂 優衣

土砂降りて歩き疲れた二日目は宿で爆睡修学旅行

群馬県立利根実業高等学校 2年 高橋 希咲

君と泣く君と笑う君と努る一緒に歩んだすべてが君と

群馬県立利根実業高等学校 2年 藤ノ木 涼夏

放課後に心許した友人と駅まで歩く小さな幸せ

群馬県立利根実業高等学校 2年 長谷川 茉奈

落ち葉踏みとぼとぼ歩く帰り道曙色の空が包み込む

群馬県立利根実業高等学校 2年 星野 優里華

とぼとぼと歩く上には秋晴れが思わずパシャリ青をおさめる

群馬県立利根実業高等学校 2年 星野 優里華

雨が降り光を探して歩む空望む思いは十人十色

群馬県立利根実業高等学校 2年 中村 楓佳

友達と寒い中歩き学校へ手足かじかむ真冬の季節

群馬県立利根実業高等学校 2年 田川 遥果

金沢市三歩あるいて姿消え電話つないで迷子そうさく

群馬県立利根実業高等学校 2年 池田 思奏瑠

歩いてくどこまでもつづく大雨はこぞとばかりに笑顔咲く

群馬県立利根実業高等学校 2年 阿部 くるみ

トコトコと歩く足元見ると沢山の落ち葉ふと上を見るとき夕焼けだ

群馬県立利根実業高等学校 2年 関 優羽奈

町燃えて地元を歩き紅葉狩り黄色い葉っぱに赤い葉っぱ

群馬県立利根実業高等学校 2年 鶴淵 礼菜

大雨にうたれた傘を持ちながら歩く金沢いい思い出だ

群馬県立利根実業高等学校 2年 阿部 楓

成長は一歩一歩の積み重ね進むか下がるか自分次第

群馬県立利根実業高等学校 2年 治田 璃実

外歩きほつぺにぴとり白い雪今年もきたな凍える季節

群馬県立利根実業高等学校 2年 関根 愛柊

近日の年越しに向け大そうじきれいな気持ちで新年歩む

群馬県立利根実業高等学校 2年 林 日奈葵

あれこれと思い描きし我が姿叶えるための第一歩

群馬県立利根実業高等学校 2年 金井 沙良

「まだ子供」大人に言われて悔しがり一歩一歩進み続けり

群馬県立利根実業高等学校 2年 井上 翔太

青空の秋の散歩は足もとが赤く染まった紅葉の絨毯

群馬県立利根実業高等学校 2年 白井 さら

進路決め歩まなければいけないが夢がないから永遠悩む

群馬県立利根実業高等学校 2年 生方 綾華

この道を止まらず歩くとこの後を見るな前だけを見る

群馬県立利根実業高等学校 2年 牛口 朔弥

雨の中傘さし歩いた金沢市風にも吹かれ傘裏返る

群馬県立利根実業高等学校 2年 栗原 真花

あと一年残りの青春歩んでくあなたとともに少しづつでも

群馬県立利根実業高等学校 2年 竹沢 夕日

秋の道上から落ちる黄色い葉イチョウの色に染まった歩道

群馬県立利根実業高等学校 2年 川合 菜々海

秋過ぎていつもの道を歩く今日季節の変わり感じていく

群馬県立利根実業高等学校 2年 戸丸 純菜

霜降って歩いたら鳴る霜の音楽しくてつい寄り道をする

群馬県立利根実業高等学校 3年 石田 桜雪

あの人がこれから先へ進む道隣にいたい同じ歩幅で

群馬県立利根実業高等学校 3年 柴山 みゆ

くじ引きで決めた席替え君となり君と近づく第一歩かな

群馬県立利根実業高等学校 3年 鶴淵 ゆかり

歩道橋友と渡るとこわくない一人のときは別の道から

群馬県立利根実業高等学校 3年 鶴淵 ゆかり

ランドセル背負い白線踏む姿懐かしく思う横断歩道

群馬県立利根実業高等学校 3年 本多 夢来

ふみ出して進み続けるその足は歩み出したら夢の先だ

群馬県立利根実業高等学校 3年 石井 望愛

立ち止まらずただ歩けばいつかたどり着ける

群馬県立利根実業高等学校 3年 岡谷 李乃

試験日の当日の朝かくご決め夢へと歩む最初の一步

群馬県立利根実業高等学校 3年 加藤 詩琉

暇あると祖母と私でゆつくりと散歩しながら紅葉ひたる

群馬県立利根実業高等学校 3年 後藤 千聖

幼少期母と歩いた暗道も流れる成長今では一人

群馬県立利根実業高等学校 3年 関上 和真

プロの道歩んでいくよ大空へ運命が決まるルーキー達

群馬県立利根実業高等学校 3年 南雲 慈苑

毎朝の変わらぬ景色これからはそれぞれの道歩み始める

群馬県立利根実業高等学校 3年 福島 愛穂

また明日歩道橋に背を向ける逃亡したいまだ見ぬ未来

群馬県立利根実業高等学校 3年 福島 愛穂

友人と一緒に歩く帰り道そんな道のりもあと数カ月

群馬県立利根実業高等学校 3年 星野 七海

友人と歩いて帰るそれだけが私の中の大きな青春

群馬県立利根実業高等学校 3年 山崎 愛梨

貴方との並んで歩く散歩道合わさる歩幅足取り軽く

群馬県立利根実業高等学校 3年 大竹 真佳

どんな時も苦難があると分かってもそれでも歩む修羅の道

群馬県立利根実業高等学校 3年 佐々木 ひより

ハードルの歩幅合わせが難しい何度やっても後二歩減らない

群馬県立利根実業高等学校 3年 佐藤 涼風

成長はゆつくりだけけどするもの小さなようで大きな一歩

群馬県立利根実業高等学校 3年 佐藤 裕香

帰り道友と楽しく歩いてるいつかは終わるこの時間

群馬県立利根実業高等学校 3年 高橋 菜々子

二人きり歩幅を合わせ帰り道いつもの道を通り過ぎてく

群馬県立利根実業高等学校 3年 高橋 実鈴

将来へ一歩踏み出す高三の悩みと不安で忙しい日々

群馬県立利根実業高等学校 3年 高柳 真鈴

遊歩道一人で出かけた旅先の景色新たな出会い

群馬県立利根実業高等学校 3年 田村 暖

下校時に歩いて帰るその道が残りわずかでむなししい気持ち

群馬県立利根実業高等学校 3年 大和 紫織

近付けば一歩後ずさり野良猫よ歩み止めずに路地へくります

群馬県立利根実業高等学校 3年 安達 由那

さよなら遠さかる日々が恋しいけどそれぞれの道を歩む僕たち

群馬県立利根実業高等学校 3年 入澤 美月

年を越し新たな一歩胸踊りスタート近き身体^{からだ}凛然

群馬県立利根実業高等学校 3年 大澤 叶華

目の前を歩く老人似ているな大好きな祖母にまた会いたい

群馬県立利根実業高等学校 3年 田中 心乃花

すれ違う犬はもみじをふみわけて秋風の中元気に歩く

群馬県立利根実業高等学校 3年 林 咲衣

はばたいて未来へ歩むたくさんの期待を背負う子どもたち

群馬県立利根実業高等学校 3年 深代 麗蘭

コート着て友人と歩く帰り道笑いすぎると逆に暑い

群馬県立利根実業高等学校 3年 石坂 春果

何回もこけそうになる下り坂友と歩いた学校帰り

群馬県立利根実業高等学校 3年 千明 梨奈

歩道橋もう君がいてもすれ違う気づけないほど冷めてしまった

群馬県立利根実業高等学校 3年 竹内 乃愛

私たちあなたの気持ちに歩みよる顔をあげればみんなの笑顔

群馬県立利根実業高等学校 3年 笠原 瑠楓

帰り道必ず通る歩道橋よじよに消えてく夕日の光り

群馬県立利根実業高等学校 3年 笠原 瑠楓

スマホより歩めば広がる景色と音色少しは視界を休めよう

群馬県立利根実業高等学校 3年 柳澤 京花

日常と少し変わった景色たち一人一人が歩み出してく

群馬県立利根実業高等学校 3年 横坂 心美

肌寒い空の下で息を呑む歩くふたりの影重なる

群馬県立利根実業高等学校 3年 横坂 心美

卒業の扉を開けて歩きだす新たな道へ自分を信じて

群馬県立利根実業高等学校 3年 松井 瑠花

暖かい昼に一人と一匹で川辺を歩くいつもの日常

群馬県立利根実業高等学校 3年 松井 美希

猫を抱き家の周りを散歩する町も重さも変わったなあ

群馬県立利根実業高等学校 3年 荻野 茉雪

歩くよりもっと楽しい走ることしかしつかれるだから歩く

群馬県立利根実業高等学校 3年 林 佳宏

歩いてたら後ろからけられふりかえるチーマたくさん冬のはじまり

群馬県立利根実業高等学校 3年 林 佳宏

帰り道友と歩いて出来事を話すことも残りわずかだ

群馬県立利根実業高等学校 3年 菅原 里菜

第一歩思い出つまる学び舎から新たな道へ旅立つよ

群馬県立利根実業高等学校 3年 後藤 美咲

下向いて歩いていてもつまらない空を見上げて歩こうよ

群馬県立利根実業高等学校 3年 藤井 千鶴

君と見る舞い落ちる紅葉綺麗かな秋を感じる道歩くととき

群馬県立利根実業高等学校 3年 岡田 陽奈

この人生一緒に歩んだ道のりはこの先ずっと忘れることなく

群馬県立利根実業高等学校 3年 岡田 陽奈

登下校カップルロード歩いてく一緒にいるのは女友達

群馬県立利根実業高等学校 3年 田村 花穂

森林のみんなと歩むこの道は別れを惜しみ泣き笑顔

群馬県立利根実業高等学校 3年 齋藤 夏颯

高三は受験に対するにらめっこ大人のための第一歩

群馬県立利根実業高等学校 3年 齋藤 夏颯

一歩ずつ歩くことに意味がある止まらなければ道は開けるから

群馬県立利根実業高等学校 3年 阿部 凜花

飼い主さん散歩に行こうと着いてくる今日は二回も行ったでしょう

群馬県立利根実業高等学校 3年 阿部 希花

歩きたす未来に向けて大一步歩幅によって変わる過去

群馬県立利根実業高等学校 3年 立木 愛梨

時が過ぎ一歩一歩卒業が近づくと今を大切に

群馬県立利根実業高等学校 3年 藤井 夢登

秋になり食欲の秋歩み寄る二キロ増加の体重計

群馬県立利根実業高等学校 3年 藤井 夢登

寒い日に今日はうらみち歩つてみたらカップルだらけでもっと寒くなる

群馬県立利根実業高等学校 3年 石田 侑亜

歩きたびバリバリと鳴る葉の音がかわいく思つて好きな季節に

群馬県立利根実業高等学校 3年 石田 侑亜

帰り道歩みを止めし橋の上ゆらりと泳ぐ紅葉の群れ

群馬県立利根実業高等学校 3年 中西 胡桃

目を擦り息吐き歩く寒空の下輪郭滲んだ山際を見る

群馬県立利根実業高等学校 3年 中西 胡桃

過去を去り未来を歩く高校生大人になつても前を向け

群馬県立利根実業高等学校 3年 日向 玄也

空見つめ思い出片手に歩みゆく彼は誰時に涙一筋

群馬県立利根実業高等学校 3年 石川 幸名

初雪に足跡残し歩みゆく温もり感じる左手と頬

群馬県立利根実業高等学校 3年 石川 幸名

いつの間にか離れていった身長差変わらぬ歩幅ほほえむわたし

群馬県立利根実業高等学校 3年 齋藤 美紗希

歩む道空見上げては手をのびず暗い世界と月のみちかけ

群馬県立利根実業高等学校 3年 齋藤 美紗希

オレンジに染まる横顔綺麗だな並んで歩き胸が高鳴る

群馬県立利根実業高等学校 3年 笹原 月

帰り道青になつても赤を待つ君と話した横断歩道

群馬県立利根実業高等学校 3年 高橋 美咲

確実に一歩一歩を踏みしめて進んでゆくよ次の舞台

群馬県立利根実業高等学校 3年 星野 愛真

帰り道あの日歩いた君と僕なかなか会えず想い届かず

群馬県立利根実業高等学校 3年 小池 可帆

夢をもち歩き続ける長い人生信じ続けて形ができる

群馬県立利根実業高等学校 3年 小林 佳広

一歩ずつ歩いてめぐつた秋の山一人の仲も真つ赤にそまつて

群馬県立利根実業高等学校 3年 石坂 英大

君と僕好きも嫌いもつりふたつ歩く歩幅も考える事も

群馬県立利根実業高等学校 3年 石坂 英大

卒業し進学を選んだ十八歳夢に向かつて歩く一歩目

群馬県立利根実業高等学校 3年 石田 瑛釈

変わりゆく緑豊かなこの街と未来へ向けて歩み出す僕

群馬県立利根実業高等学校 3年 小倉 楓喬

初雪に踏み出す一歩ゆつくりと気分はまるで月面探査

群馬県立利根実業高等学校 3年 小菅 弥来

道の駅多くの人が歩きながら野菜が安いと言つのを耳にする

群馬県立利根実業高等学校 3年 清水 璃音

帰り道歩いていると吹く風が冷たすぎて体ふるえる

群馬県立利根実業高等学校 3年 眞庭 三希也

帰り道肌を感じる秋の風歩いて分かる季節の変化

群馬県立利根実業高等学校 3年 山後 柊也

歩み出し母の背中を追いかける今では走る一歳の甥

群馬県立利根実業高等学校 3年 清水 厚志

秋の夕風立つ日々の悲しさや一人で歩く帰り道かな

群馬県立利根実業高等学校 3年 関上 颯太

ただ前へ進むが故に我歩く決して焦らずゆつくり前へ

群馬県立利根実業高等学校 3年 関根 憂飛

放課後に君と歩いたこの道を今日は少しだけゆつくり行きたい

群馬県立利根実業高等学校 3年 関根 憂飛

新生活誰でも最初は歩であるがいつかは金に成れるだろうか

群馬県立利根実業高等学校 3年 関根 憂飛

街を歩き見つけた今日の集合場所そんなことよりおうどんたべたい

群馬県立利根実業高等学校 3年 関根 憂飛

君の一歩は僕よりはるかに遠いだらう僕は君より足跡が多い

群馬県立利根実業高等学校 3年 関根 憂飛

街歩き紺の背広の裾が減りその姿はもうそこには無い

群馬県立利根実業高等学校 3年 吉野 創太

歩き出す学校おわりの帰り道たくさんできた君との思い出

群馬県立利根実業高等学校 3年 石坂 成瀬

それぞれの夢に向かつて第一歩わたげのように飛びさつていく

群馬県立利根実業高等学校 3年 石田 仰輝

学生も終わり近づき悲しくも次のステージへはじめの一歩

群馬県立利根実業高等学校 3年 宇津野 海翔

まち歩くすれ違う人マスクつけ皆の感情読めぬまま

群馬県立利根実業高等学校 3年 木村 優斗

卒業後友と私は違う道新たに進む人生の一歩

群馬県立利根実業高等学校 3年 小林 陸虎翔

みなかみの川沿い歩き寒い冬白く波立つ白濁の霧

群馬県立利根実業高等学校 3年 塩浦 匠汰

みなかみの温泉浸かり得るいやし帰り道にて私を包む

群馬県立利根実業高等学校 3年 田村 光

歩きたび思い出すこの故郷の活気あふれる祭りかな

群馬県立利根実業高等学校 3年 山田 拓実

歩みゆく季節は次々過ぎていく深い思い出たたくさん作る

群馬県立利根実業高等学校 3年 綿貫 雅真

この私歩いた分だけ強くなるなぜなら足が速くなるから

群馬県立利根実業高等学校 3年 綿貫 雅真

雪積もり君と歩いた帰り道二度目の冬には歩幅が揃う

群馬県立利根実業高等学校 3年 金古 隼弥

紅葉をしていた道を歩いて落ちて葉を見ると冬を感じる

群馬県立利根実業高等学校 3年 佐藤 令哉

秋冷えに一人で歩く帰り道カイト片手に寒さをしのぐ

群馬県立利根実業高等学校 3年 戸田 貫太

就職の内定きまり歩きたす夢に近づくと成功の軌道

群馬県立利根実業高等学校 3年 戸田 貫太

名月の下で一緒に歩く道オシロイバナと共に花咲く

群馬県立利根実業高等学校 3年 戸丸 夢有人

悩んだら止まって少し考えるそれが人生を歩むというんだ

群馬県立利根実業高等学校 3年 仲澤 綾

卒業の花束もつて教室へあなたと歩く最後の小道

群馬県立利根実業高等学校 3年 横坂 莉来

健康の為に買った歩数計振って誤魔かす八万二千歩

群馬県立利根実業高等学校 3年 増田 旭

夜の道歩いてみれば目にうつる君と見る星まさに宝石

群馬県立利根実業高等学校 3年 阿部 佑斗

社会へと歩み出す足重たくて不安をかかえいざ人社式

群馬県立利根実業高等学校 3年 井上 零斗

帰り道景色に見とれ歩み止め一枚パシヤリ雪と紅葉

群馬県立利根実業高等学校 3年 井上 零斗

放課後の歩いて帰る帰り道沈む夕日ほっとする自分

群馬県立利根実業高等学校 3年 小田島 優太

送る日が終わりに近づくと三年目歩く先には雪降り積もる

群馬県立利根実業高等学校 3年 上村 流偉

冬空に隣を歩く君の手を見つめるだけの僕の手冷たく

群馬県立利根実業高等学校 3年 小林 亮斗

月ごとに色彩かわる散歩道鳥のさえずり一日の始まり

群馬県立利根実業高等学校 3年 田辺 大翔

ただいまの後の一步に迷いなし引力負けてストロブ目指す

群馬県立利根実業高等学校 3年 戸丸 隼生

夕焼けの伸びる影見て背伸びする二人譲らぬ五十歩百歩

群馬県立利根実業高等学校 3年 星野 諒

月日すぎ歳を感じて手を挙げず渡つてしまふ横断歩道

群馬県立利根実業高等学校 3年 増田 陸

バイバイと手を振り上げる歩道橋下る頃にも声が響いて

群馬県立利根実業高等学校 3年 芳野 成海

秋の夕、私は独りで散歩する道に散るのは夏の思い出

群馬県立利根実業高等学校 3年 小島 啓嗣

雨風が吹いた後には虹架かり雨水溜まった道を歩く

群馬県立利根実業高等学校 3年 千木良 昂亮

放課後にみんなで歩いた夜の町広がる光の一番星は

群馬県立利根実業高等学校 3年 千明 航

空を見る川流聴けば思い出す空を歩く君の髪の毛

群馬県立利根実業高等学校 3年 戸部 壮琉

人生は山あり谷ありだけれども歩む歩幅は変わらない

群馬県立利根実業高等学校 3年 星野 創大

青春の全てだったが期限切れ全力をつくす始めの一步

群馬県立利根実業高等学校 3年 星野 愛萌

登校中足を止めてふりかえる気づけばこんな歩いてきた

群馬県立利根実業高等学校 3年 伊藤 神威

歩む道高みを目指して進んでく後ろを向かず一直線

群馬県立利根実業高等学校 3年 江連 雄大

高三でうちなる私君に問う私の歩くレールの行先

群馬県立利根実業高等学校 3年 千喜良 孝太

暮れる日が歩く二人の影伸びず続けこの時沈むな夕日

群馬県立利根実業高等学校 3年 星野 颯介

スマホ見て目を疑った今日の歩数どこ歩ったかな五万五千歩

群馬県立利根実業高等学校 3年 星野 颯介

四月から新しい道歩き出す朝の登校が出勤になる

群馬県立利根実業高等学校 3年 諸田 光祐

朝起きていつもの道を歩き出す畑にはもう霜がおりてる

群馬県立利根実業高等学校 3年 山田 真那斗

何年も歩き続けたこの道もあと少しで卒業になる

群馬県立利根実業高等学校 3年 金子 柚葵

雨の日に傘をさして歩く中暗い気持ちと暗い表情

群馬県立利根実業高等学校 3年 下田 結太

帰り道静かなあなた下むいて歩く音だけ聞こえてくる

群馬県立利根実業高等学校 3年 津久井 陸翔

何年も歩き続けたこの道の景色忘れず僕は旅立つ

群馬県立利根実業高等学校 3年 笛木 捺生

友達と歩いて帰る夜の道なぜだか月が君を照らした

群馬県立利根実業高等学校 3年 笛木 捺生

散歩道当たり前にも特別で君と歩んだこの道が

群馬県立利根実業高等学校 3年 星野 明莉

歩きゆく道をライトに照らされて未来の自分は何を思う

群馬県立利根実業高等学校 3年 山田 将人

夜の道先の見えない不安さに将来重ねて歩む私

群馬県立利根実業高等学校 3年 吉岡 篤伸

高校生以下の部【自由題】

作品集

588人 820首
投稿順に掲載

大空を美しく舞う鳥たちに私もなりたい自由な世界

群馬県太田市立木崎中学校 2年 渡邊 桃香

宿題を食べる生き物いなか、今見てる夢バクが食う

群馬県太田市立木崎中学校 2年 田中 樹

もうやめた宿題多い夏休み宿題なんてやりたくないな

群馬県太田市立木崎中学校 2年 高谷 一樹

我慢せず自分のしたい物事をストレスだして満足しよう

群馬県太田市立木崎中学校 2年 碓氷 海斗

夏の夜きれいに光る火のお花来年も行く花火大会

群馬県太田市立木崎中学校 2年 鳥山 夏希

今までと違う発表無観客少しさみしく何か新鮮

群馬県太田市立木崎中学校 2年 太田 実里

自分達友達共に一生の仲良いちかいついていこう

群馬県太田市立木崎中学校 2年 谷 優斗

窓の外ふと見てみると白い雲ふわふわしておいしそう

群馬県太田市立木崎中学校 2年 野口 真優

したくないあそびをしたいだらけたい後でくるしむ自分のみだけ

群馬県太田市立木崎中学校 2年 神田 理心

夏えば水平線の青い海泳ぎたくなる青い宝石

群馬県太田市立木崎中学校 2年 今福 伊織

ミニトマトみんなでとれたいろいろだのこすは味だおしいのか

群馬県太田市立木崎中学校 2年 清水 真斗

草むしりとても楽しいことだったとても立派に育てていこう

群馬県太田市立木崎中学校 2年 松嶋 大翔

雨が降り部屋でさびしく暇つぶし外ではびちゃびちゃにぎやかな雨

群馬県太田市立木崎中学校 2年 松本 昂大

日のもとで汗びしょびしょと畑仕事大きく実る赤き太陽

群馬県太田市立木崎中学校 2年 松本 昂大

夏の夜友達とみた夜空には大きく咲いたきれいな花火

群馬県太田市立木崎中学校 2年 赤澤 遥

暑さから戦いながら草むしり草のにおいが手にしみついた

群馬県太田市立木崎中学校 2年 桑原 滯

今は晴れ今日はお外で遊びたいブランコに乗りシーソーに乗り

群馬県太田市立木崎中学校 2年 前川 彩夏

日の下であせをながして手を黒くたくさんつかんだ赤い宝石

群馬県太田市立木崎中学校 2年 保木 日向子

友達と祭りに行つて花火見る。なんかそれつて青春じゃない

群馬県太田市立木崎中学校 2年 金井 歩夢

生長し収かくしてみたミニトマト太極みたいなミニトマトかな

群馬県太田市立木崎中学校 2年 金井 歩夢

太陽が恵んでくれたこの宝小さく赤く甘ずっぱい

群馬県太田市立木崎中学校 2年 栗田 美空

どんぐりだいやちがったなミニトマト天まで届けミニトマトたち

群馬県太田市立木崎中学校 2年 倉持 輝久

せまる壁まだ日はあるとだらけたら後少しだよ受験の日まで

群馬県太田市立木崎中学校 2年 唐澤 亜実

中学校門をくぐつた私たちコロナじしゅくて足ぶみ悲し

群馬県太田市立木崎中学校 2年 茂木 力斗

喰われてる育ててみたのはいいけども向いてないので次はやめよう

群馬県太田市立木崎中学校 2年 大滝 瑠依

初めての期末テストはいつもより緊張して計算ミスだ

群馬県太田市立木崎中学校 2年 高橋 寿菜

徒歩で行く近所の家にとどけ物とどけたあとはのんびり歩く

群馬県太田市立木崎中学校 2年 久保田 凜旺

バスケット走り続ける最後まで勝つたらみんな大喜びだ

群馬県太田市立木崎中学校 2年 久保田 凜旺

我が庭に真夏の時がきたりけり生物みんな日陰の中に

群馬県太田市立木崎中学校 2年 久保田 凜旺

雨が降りあじさいの花ぬれていた雨に負けない梅雨の花たち

群馬県太田市立木崎中学校 2年 野口 麻彩花

夕やけの部活の帰り頑張れと見上げた空に元気をもらおう

群馬県太田市立木崎中学校 2年 松崎 美和

梅雨がきたじめじめしていやだけれどきれいな花を見つられた

群馬県太田市立木崎中学校 2年 松崎 美和

静かなる体育館に響く音パスを受け取り追加点

群馬県太田市立木崎中学校 2年 吉田 姫渚

生き生きとバスケの試合暑い中チーム一丸勝利への道

群馬県太田市立木崎中学校 2年 吉田 姫渚

コロナ禍の外出できないストレスをただためるいつかの日まで

群馬県太田市立木崎中学校 2年 吉田 姫渚

試合中同級生が交代しあせる気持ち悔しき思い

群馬県太田市立木崎中学校 2年 吉田 姫渚

テスト中鳥がはばたき風が吹くなぜか気になるまわりのようす

群馬県太田市立木崎中学校 2年 山田 蒼真

屋上で景色臨んで昼食を思うひととき風まう砂じん

群馬県太田市立木崎中学校 2年 井上 脩

はいふりの聖地巡礼行きたいなコロナ禍だから行けないな

群馬県太田市立木崎中学校 2年 秋澤 壮馬

冬の日の強き風ふく屋上で目で見た景色とても美しい

群馬県太田市立木崎中学校 2年 高木 裕照

友達と夢の国へと冒険ださ迷いながら探し続ける

群馬県太田市立木崎中学校 2年 高橋 舞衣

頼りたいみんなの力たくましい自分一人じゃ何も出来ない

群馬県太田市立木崎中学校 2年 五十嵐 唯

平和へと続く道を進んでく人間ならば必ず出来る

群馬県太田市立木崎中学校 2年 五十嵐 唯

春休み近所の桜見に行つて今年感じたとてもきれいな

群馬県太田市立木崎中学校 2年 深須 玲菜

夏休み今年はどこへ行くのかと暑い季節も迷う楽しみ

群馬県太田市立木崎中学校 2年 深須 玲菜

過去よりも未来に向かって進みたい勇気を出せば必ず行ける

群馬県太田市立木崎中学校 2年 荒井 優翔

空願う時よもどれとあがくまま君との時間君との笑顔

群馬県太田市立木崎中学校 2年 山川 風歌

僕は今年月かけて成長し社会を学び未来へ歩

群馬県太田市立木崎中学校 2年 浅海 優斗

夏の朝図書館で読んでるととても明かるい窓の近くで

群馬県太田市立木崎中学校 2年 佐藤 愛緒

冬の朝図書館読んでいる雪のふるなかな一人楽しく

群馬県太田市立木崎中学校 2年 佐藤 愛緒

春の夜みんなで見る夜の空みんな楽しく夜の花見

群馬県太田市立木崎中学校 2年 佐藤 愛緒

秋の昼図書館で読んでる二人楽しく話しながら

群馬県太田市立木崎中学校 2年 佐藤 愛緒

雨の日に二人楽しく読んでる図書館話しながら

群馬県太田市立木崎中学校 2年 佐藤 愛緒

なぜか今無視をしてくる人がいる口で言わなきゃ分からねえだろ

群馬県太田市立木崎中学校 2年 嶋田 洸

朝読書静まりかえる生徒たちチャイムの音で今日も始まる

群馬県太田市立木崎中学校 2年 山崎 望生

教室に偶然虫が入ったら友達喚くサイレンのよう

群馬県太田市立木崎中学校 2年 石橋 直希

上を向き毎日願う明日のこと下を向けば願ひかなわす

群馬県太田市立木崎中学校 2年 阪下 愛純美

ミニトマト汗が落ちれば水のように友と一緒に誘引係

群馬県太田市立木崎中学校 2年 阪下 愛純美

今私将来のこと考える本当にこれで良いのだろうか

群馬県太田市立木崎中学校 2年 阪下 愛純美

夏がくるあつい日ざしで感じるなれないものねだり冬がこいしい

群馬県太田市立木崎中学校 2年 今野 絆

ミニトマト育てて香る夏の味今か今かと待ち続ける

群馬県太田市立木崎中学校 2年 田村 妃菜

そよ風の木陰の下で読書中葉のすき間から差し出す光

群馬県太田市立木崎中学校 2年 草間 菜々子

今晚の夜空に光る流れ星願いを込めて前へと進む

群馬県太田市立木崎中学校 2年 原嶋 彩羽

まぶしげに真つ青な空に見あげ入道雲に夏の始まり

群馬県太田市立木崎中学校 2年 下澤 梨瑚

夏休み終わり近づき焦りだす宿題の山勝負にいどむ

群馬県太田市立木崎中学校 2年 松永 唯可

なぜだろう人は死ぬのがこわいのか生きる希望を求めて走る

群馬県太田市立木崎中学校 2年 飯牟礼 隼翔

梅雨の時期そろそろあける夏がくる暑さに負けず雨にも負けず

群馬県太田市立木崎中学校 2年 石井 龍太

冬の日に空に舞う白い結晶

群馬県太田市立木崎中学校 2年 白石 創也

かさ忘れ雨にぬれると覚悟した君にかさ借り高鳴る胸中

群馬県太田市立木崎中学校 2年 市川 花乃子

父親も母も家庭も僕を捨て孤児院遊ぶ前より楽し

群馬県太田市立木崎中学校 2年 市川 花乃子

雨滴悔し涙に目をぬらし来年目指す甲子園まで

群馬県太田市立木崎中学校 2年 市川 花乃子

暑い日に学校の畑見てみたら沢山トマト赤く染まつてた

群馬県太田市立木崎中学校 2年 堀越 姫愛

恋心出合いがあれば別れあり終わらないでと心が叫ぶ

群馬県太田市立木崎中学校 2年 堀越 姫愛

授業中窓を開けると風の音ささやく風にこたえる心

群馬県太田市立木崎中学校 2年 倉林 暁大

ミニトマト光る水滴つたつてる暑さに負けず伸びていく葦

群馬県太田市立木崎中学校 2年 大塚 望愛

あいさつは心がかかよう友達とまほうの言葉いつもわすれず

群馬県太田市立木崎中学校 2年 石塚 優光

部活中友達と言うおうえんか大声出して声がしんでる

群馬県太田市立木崎中学校 2年 飛田 翔哉

ミニトマトくきがおれたよやばすぎるしがおれたよもう65さいだよ

群馬県太田市立木崎中学校 2年 飛田 翔哉

部活中にドリブルしたらつきゆびだはつきようしたらコモンがきた

群馬県太田市立木崎中学校 2年 飛田 翔哉

りひちゃんに僕があだ名をつけたよとりつぴーとねりひちゃん努る

群馬県太田市立木崎中学校 2年 飛田 翔哉

だれかさなかっつけてるシュートがねはずしたときはださすぎわろた

群馬県太田市立木崎中学校 2年 飛田 翔哉

トマト取り誘引したが伸びる葦伸びすぎ注意自分のトマト

群馬県太田市立木崎中学校 2年 須藤 千騎

夏暑し家で涼しむせん風機日向葵は日の光をあびる

群馬県太田市立木崎中学校 2年 齋藤 海里

大会で中々勝てずリベンジを次の大会大活躍だ

群馬県太田市立木崎中学校 2年 齋藤 海里

真冬時コタツに入つてぬくぬくとみかんを食べてぐうたらしてる

群馬県太田市立木崎中学校 2年 齋藤 海里

登校中眠くばよける目をこすり学校到着友達がいた

群馬県太田市立木崎中学校 2年 齋藤 海里

新学期桜満開散つてゆく今年もたくさん友達作り

群馬県太田市立木崎中学校 2年 齋藤 海里

スイカ食べ茶飲んではまた食べるひまな一日白紙の予定

群馬県太田市立木崎中学校 2年 早川 昇吾

病気かな病気じゃないよ病気だよさすが比企谷周りはかわいい

群馬県太田市立木崎中学校 2年 境野 瑠人

茎さんは育つて折れてもついでだあきた育つので水がある

群馬県太田市立木崎中学校 2年 境野 瑠人

テストの日気持ちドキドキ焦つてるテスト本番あたふたしてる

群馬県太田市立木崎中学校 2年 矢野 輝

鳴り響く音楽室で今奏だ一人一人が息をそろえて

群馬県太田市立木崎中学校 2年 根岸 悠人

登下校すれ違う人元気よくあいさつすると心おだやか

群馬県太田市立木崎中学校 2年 関根 凛

静寂の部屋でふときく雨の音耳をすませて心にしみる

群馬県太田市立木崎中学校 2年 斉藤 咲

まりも買い「初めて見た」とつぶやくもにせ物と知り立ちつくす我

群馬県太田市立木崎中学校 2年 中山 果音

授業中外を見てたら雨が降り授業が終われば虹がかがやく

群馬県太田市立木崎中学校 2年 櫻井 侑来

友達と昨年の春喜んだ名簿見た時気持ち晴れる

群馬県太田市立木崎中学校 2年 室田 瑛太

ふと見ると横に広がるいつもの風景今日はなんだか綺麗に見える

群馬県太田市立木崎中学校 2年 内田 実咲希

協力し勝つこと出来ず悔し泣き先輩の目にあふれた雫

群馬県太田市立木崎中学校 2年 尾島 菜摘

なぜだろうなくしたものを探しても見つからない買ったから見つかる

群馬県太田市立木崎中学校 2年 松井 萌々羽

ミニトマト色とりどりでカラフルだクラスみんな個性色々

群馬県太田市立木崎中学校 2年 黒田 莉夢

妹と一緒にゲーム協力だゲームの時は仲良しこよし

群馬県太田市立木崎中学校 2年 黒田 莉夢

すやすやとベットでねてる弟がねる子は育つ本当なのか

群馬県太田市立木崎中学校 2年 黒田 莉夢

見上げれば山々の中猫耳の谷川岳が光り輝く

群馬県みなかみ町立月夜野中学校 3年 南雲 風花

物寂し夏の夜空に流れ星暗闇の中優しく消える

群馬県みなかみ町立月夜野中学校 3年 篠田 美空

みなかみの緑豊かな山群はいやしと元気心にくるよ

群馬県みなかみ町立月夜野中学校 1年 尾崎 絢章

部活中疲れたときに最後までDon't give up走り続けた

群馬県みなかみ町立月夜野中学校 2年 アタウダキシ

昼休みチャイムが鳴つたら猛ダツシュ授業に遅れずギリギリセーフ

群馬県みなかみ町立月夜野中学校 2年 赤井 天

部活動強い日差しに負けまいとやっつと分かった日焼けの怖さ

群馬県みなかみ町立月夜野中学校 2年 原澤 彩花

部活動強い日差しに負けまいと忘れもしない夏の思い出

群馬県みなかみ町立月夜野中学校 2年 原澤 彩花

夏課題今年早く提出し成績UP目指して頑張る

群馬県みなかみ町立月夜野中学校 2年 阿部 充喜

部活中1人休憩してればあつという間に時間が経った

群馬県みなかみ町立月夜野中学校 2年 小林 瞳和

ゲーム中ほとんど勝てないもう嫌だなんてこんな弱いだろう

群馬県みなかみ町立月夜野中学校 2年 宝利 一誠

桜舞う春美しき空の下笑顔眩しい姉の姿

群馬県みなかみ町立月夜野中学校 2年 澁谷 咲葵

母校にてメロディ響かす思い出は担任と話す憩いの時間

群馬県みなかみ町立月夜野中学校 2年 林 陽菜

昨晩の布団の中の温もりは温かいまま自分を包む

群馬県みなかみ町立月夜野中学校 2年 倉澤 凜王

眠いまま朝に起きては学校へ疲れつかれてそのまま眠る

群馬県みなかみ町立月夜野中学校 2年 倉澤 凜王

一日ではしやぎ騒いでこの夜道真つ暗な夜怯えて進む

群馬県みなかみ町立月夜野中学校 2年 倉澤 凜王

馬鹿なのか背中に5番つけてるやつ意味なく滑る練習後

群馬県みなかみ町立月夜野中学校 2年 原澤 歩夢

雨予報土曜の試合運がよい日に日に減ってく降水確率

群馬県みなかみ町立月夜野中学校 2年 原澤 歩夢

澄んだ空行ってみたいなその先へ行ける頃には卒寿かな

群馬県みなかみ町立月夜野中学校 2年 原澤 歩夢

短歌のとき思いつかない日常はなんでこんなにつまらないのか

群馬県みなかみ町立月夜野中学校 2年 ミツカン 太陽

夢世界吉夢あれば悪夢あり気づいたときは現実世界

群馬県みなかみ町立月夜野中学校 2年 鈴木 紫苑

密なのに育ちが早いひまわりはプランターでも生き生きしてる

群馬県みなかみ町立月夜野中学校 2年 小野 ひより

砂の山トンネルほつてもう少し違う感触向こうも笑顔

群馬県みなかみ町立月夜野中学校 2年 植出 音倫

蝉時雨霧雨の降る恋話男はちから想ひ尊し

群馬県みなかみ町立月夜野中学校 2年 阿部 雛乃

桜吹雪春の訪れ華麗に花笑ひ汝の顔

群馬県みなかみ町立月夜野中学校 2年 阿部 雛乃

給食後意識遠く授業中だけ寝ないぞ卒業までは

群馬県みなかみ町立月夜野中学校 2年 高橋 良輔

給食後眠すぎ苦勞内容の意味がわからず授業終了

群馬県みなかみ町立月夜野中学校 2年 高橋 良輔

春の風桜が舞って春揺れるみんな笑って巻積雲

群馬県みなかみ町立月夜野中学校 2年 西山 歩実

春光る日差し暖か春の風緑輝く夏が近い

群馬県みなかみ町立月夜野中学校 2年 西山 歩実

部活動ラリー続かず負けたばく次の戦い勝利導け

群馬県みなかみ町立月夜野中学校 2年 林 義仁

部活前走る疲れる練習は毎日続け強くなれるよ

群馬県みなかみ町立月夜野中学校 2年 林 義仁

部活動たくさんやってうまくなるやって身につくたくさんの事

群馬県みなかみ町立月夜野中学校 2年 石坂 瑠綺愛

青空を静かに泳ぐ白雲と青空覆うたくさんの雲

群馬県みなかみ町立月夜野中学校 2年 石坂 瑠綺愛

最悪だ期末の課題終わらずに1日前に終わらせるはめ

群馬県みなかみ町立月夜野中学校 2年 石坂 瑠綺愛

愛犬にくまのおもちやを与えたらたくさん遊ぶ嬉しい私

群馬県みなかみ町立月夜野中学校 2年 信澤 明咲

くまに穴新しいのにすぐこわす愛犬の力半端なさすぎ

群馬県みなかみ町立月夜野中学校 2年 信澤 明咲

新しいくまのおもちやを気に入って肌身離さず一緒に行動

群馬県みなかみ町立月夜野中学校 2年 信澤 明咲

部活にて自分の世界に入り込み飛んでくるボール気づかず直撃

群馬県みなかみ町立月夜野中学校 2年 阿部 葉奈

総体に向けて毎日練習だ勝てるように部活に励む

群馬県みなかみ町立月夜野中学校 2年 高橋 楓禾

外を見る大きく佇む白い猫広い世界の旅の途中で

群馬県みなかみ町立月夜野中学校 2年 馬場 鱒之介

外の世界広い世界のその中今日も私生きてるのか

群馬県みなかみ町立月夜野中学校 2年 馬場 鱒之介

気がついたふと外みれば多くの人この広くて素晴らしき世界に

群馬県みなかみ町立月夜野中学校 2年 馬場 鱒之介

ふと思う大きく広い宇宙の中で人間はとても美しいことを

群馬県みなかみ町立月夜野中学校 2年 馬場 鱒之介

数学の期末でいい点嬉しいが他の教科が終わってる

群馬県みなかみ町立月夜野中学校 2年 中澤 孝太郎

うちの猫つばめ捕まえそのままに片付け私が行うことに

群馬県みなかみ町立月夜野中学校 2年 原澤 彩太

うちの猫子育てつばめを捕まえて食わずにそのまま置いて行く

群馬県みなかみ町立月夜野中学校 2年 原澤 彩太

助けてとつばめがどれだけ叫んでもうちの子無慈悲に遊んでる

群馬県みなかみ町立月夜野中学校 2年 原澤 彩太

しんとした朝の静かなひとときをうるさし妹目覚まし幼子

群馬県みなかみ町立月夜野中学校 2年 鈴木 紗衣羅

五教科で唯一できる国語でも短歌となると話は違う

群馬県みなかみ町立月夜野中学校 2年 馬場 理菜

登校中友達の前大転び恥ずかしすぎて大爆笑

群馬県みなかみ町立月夜野中学校 2年 阿部 美羽

ライバルと幾度やっつけて負けていき優勝なんて遠い夢のようだ

群馬県みなかみ町立月夜野中学校 2年 久保田 侑太

決勝ですべてかわされ二本負け攻めを変えればと激しく後悔

群馬県みなかみ町立月夜野中学校 2年 久保田 侑太

得意な打ち打ち負け大会で家で暗涙僕は負けて

群馬県みなかみ町立月夜野中学校 2年 久保田 侑太

主人公強くてそして美しいそう想ひしむ漫画に出会う

群馬県みなかみ町立月夜野中学校 2年 田中 優

主人公強くてそして美しいそう想ひしむ私がいる

群馬県みなかみ町立月夜野中学校 2年 田中 優

面白いそう思った漫画に出会ってしまいい心打たれた

群馬県みなかみ町立月夜野中学校 2年 田中 優

期末テスト尽きない課題焦る日々ギリギリ終えたテスト前日

群馬県みなかみ町立月夜野中学校 2年 田中 里歩

暑き日の薫風吹き初夏の日汗水たらしめた体力テスト

群馬県みなかみ町立月夜野中学校 2年 藤井 純ノ愛

部活中肘笠雨の野球場ベンチで待つ十一人

群馬県みなかみ町立月夜野中学校 2年 小熊 航太郎

テスト前頑張ったけど忘れてた技術はノー勉四十六点

群馬県みなかみ町立月夜野中学校 2年 西山 大智

授業中外をながめて平和かな青い夏空緑の自然

群馬県みなかみ町立月夜野中学校 3年 高橋 美紀

朝起きる眠気と共に二度寝する

群馬県みなかみ町立月夜野中学校 3年 石坂 颯我

あの日見た心が和む夕焼けを

群馬県みなかみ町立月夜野中学校 3年 石坂 颯我

暑すぎて話にならぬセミの声鳴きたい気持ちみんなも同じ

群馬県みなかみ町立月夜野中学校 3年 矢野 夏希

嫌なこと口に出してはつきりと負けるな気持ちとどけこの声

群馬県みなかみ町立月夜野中学校 3年 高橋 涼

雨上がりの太陽の色が食べているメロンアイスの色とリンクした

山口県光市立光井中学校 5年 横道 玄

夏終りもう秋になる早すぎたおどろくほどに時が流れる

山口県光市立光井中学校 1年 庄司 彩香

休日の部活練習は大変だそれでも私はラケットを振る

山口県光市立光井中学校 2年 市川 芽衣

三十一文字ポツにはせずに書くが吉添削作品見て納得

山口県光市立光井中学校 3年 多田 妃葵

一瞬で天から落ちる雷電は世にもめずらし神の気まぐれ

群馬県みなかみ町立水上中学校 1年 石井 蒼泰

暑い夏釣りをしようとお海へ行き魚が怖いと母はさばけず

群馬県みなかみ町立水上中学校 1年 小倉 太志

森の中木々からこぼれる日の光体がだんだん温かくなる

群馬県みなかみ町立水上中学校 1年 木村 海斗

山の中きれいな自然ときれいな川自然の音色もとてもいい

群馬県みなかみ町立水上中学校 1年 倉持 颯大

夜の空きれいに色づく夏の月星もきらめくあの日の空

群馬県みなかみ町立水上中学校 1年 阿部 未来

向日葵の夏を感じるあざやかさ夏の光が照らされる時

群馬県みなかみ町立水上中学校 1年 佐藤 ころこ

甲子園青春つまった一球がいまこの地でときはなたれる

群馬県みなかみ町立水上中学校 1年 中島 光翔

変わりゆく利根のみなかみ様々な季節いつもとちがう利根のみなかみ

群馬県みなかみ町立水上中学校 1年 林 ゆん

新雪に重なり積もる雪たちは遅くくるのに帰りは早い

群馬県みなかみ町立水上中学校 2年 阿部 晃大

ふんばるも大事だけれどにげるのもまた新しいがんばりなのか？

群馬県みなかみ町立水上中学校 2年 荒木 遙翔

クラスの子皆と帰る帰り道大人になってもまた会えるかな

群馬県みなかみ町立水上中学校 2年 荒木 遙翔

月曜日時計を見て学校に行きたくなってためいきが出た

群馬県みなかみ町立水上中学校 2年 オトコト 男太

猛暑の夏その顔見せるはまだ先でこの梅雨空に憎しみおぼえる

群馬県みなかみ町立水上中学校 2年 木村 純一郎

春の色花々で色どるふるさととは今までもきれいに見える

群馬県みなかみ町立水上中学校 2年 木村 純一郎

初夏の熱お祭りさわぎはいつまでも頭に残る一つの思い出

群馬県みなかみ町立水上中学校 2年 木村 純一郎

夏がくるベットとぼくは夏バテで何もせずに一日終わる

群馬県みなかみ町立水上中学校 2年 木村 将斗

夏の夜耳をすませばないているやさしい歌声コオロギだ

群馬県みなかみ町立水上中学校 2年 久保 咲真

登下校いつも同じ道だけだ僕のは日々変わって

群馬県みなかみ町立水上中学校 2年 西形 颯菜

おし入れの奥にしまった扇風機久々に出せばほこり舞い散る

群馬県みなかみ町立水上中学校 2年 西形 颯菜

梅雨の時季雨にうたれて生き延びるあじさい強し尊敬します

群馬県みなかみ町立水上中学校 2年 福島 大都

実現でタイムスリップしてみたいどんな世界に行くのだろうか

群馬県みなかみ町立水上中学校 2年 福島 大都

最近ではコロナで外出できませんはやくおわって新型コロナ

群馬県みなかみ町立水上中学校 2年 福島 大都

夏のセミ元気になくよ一週間自分のしめいを果たすため

群馬県みなかみ町立水上中学校 2年 山田 滯

授業中早く終われと時計見るほんとに長いラスト十分

群馬県みなかみ町立水上中学校 2年 山田 滯

テスト前勉強しよう部屋に行く兄の口から「ゲームしよぜ」

群馬県みなかみ町立水上中学校 2年 金川 侑愛

部活中先輩が言ったある言葉引退するのがすごく不安だ

群馬県みなかみ町立水上中学校 2年 金川 侑愛

朝起きる窓を開けるとそよそよと気持ちよく吹く真夏の風が

群馬県みなかみ町立水上中学校 2年 久保 若葉

夏休みアイスを食べるおいしいなひんやりつめたい暑さふきとぶ

群馬県みなかみ町立水上中学校 2年 小池 碧衣

夏休み花火見ていて解けたアイス食べる猛暑の晩

群馬県みなかみ町立水上中学校 2年 沼尻 佳奈英

朝起きて家族に向かっておはようとその一言で気分ルンルン

群馬県みなかみ町立水上中学校 2年 長谷川 結菜

夕焼が私を照らすまぶしいなもうすぐ朝が来るのかな？

群馬県みなかみ町立水上中学校 2年 長谷川 結菜

授業中集中してると聞こえてくる他のクラスの歌っている声

群馬県みなかみ町立水上中学校 2年 長谷川 結菜

羽子板で遊ぶ子供の姿見て懐しき思い出振り返る

群馬県みなかみ町立水上中学校 2年 長谷川 結菜

推したちの動画に音楽いやされるテンション上がる自分の世界

群馬県みなかみ町立水上中学校 2年 山口 真佳

夏休み宿題いっぱい大変だ追われ続けてトラウマになる

群馬県みなかみ町立水上中学校 2年 山口 真佳

授業中セミ汽車びびくそよ風にもうすぐ夏のくるころかな

群馬県みなかみ町立水上中学校 2年 山口 真佳

家につき階段おけると弟がベッドの横にかくれている

群馬県みなかみ町立水上中学校 3年 阿部 颯晟

前日に早く寝てもまだ眠いもつとつと寝ていたい

群馬県みなかみ町立水上中学校 3年 阿部 颯晟

一学期終了間近に胸踊る今年の休み受験勉強

群馬県みなかみ町立水上中学校 3年 阿部 颯晟

寝すごした！10秒間だけ考えて何を思ったかまた目をつむる

群馬県みなかみ町立水上中学校 3年 景山 蓮太郎

夏の夜木にいるカブトつかまえて大きさをくらべよの弟

群馬県みなかみ町立水上中学校 3年 倉持 息吹

真夜中に窓を開けると夏の音かわずの親子が大合唱

群馬県みなかみ町立水上中学校 3年 小林 侑生

早く起き駅伝練習行こうがやっぱり眠い夏の朝

群馬県みなかみ町立水上中学校 3年 佐々木 幹仁

どんどんとせまってくるのは夏休みまっつきましたよ宿題の山

群馬県みなかみ町立水上中学校 3年 鈴木 奏真

あしひきの谷川の峰に広がりし秋晴れの空切る飛行機雲

群馬県みなかみ町立水上中学校 3年 高橋 昌稔

霧雨にうたれて光る水芭蕉孤独の一輪雨ニモマケズ

群馬県みなかみ町立水上中学校 3年 高橋 昌稔

水平線赤き輝く夕日かな逆光で見えない僕の顔

群馬県みなかみ町立水上中学校 3年 トシシタ陽ツレム

カタツムリおもわずおどる梅雨の雨雨の音がBGM

群馬県みなかみ町立水上中学校 3年 トシシタ陽ツレム

夜桜も感じさせる恋の予感風の流れとともに

群馬県みなかみ町立水上中学校 3年 トシシタ陽ツレム

寒い冬冬のおともはみかんかな猫のおともはこたつかな

群馬県みなかみ町立水上中学校 3年 トシシタ陽ツレム

つり革に届く背丈の車窓から光って見えるはいつもの緑

群馬県みなかみ町立水上中学校 3年 中村 颯人

友達や家族と団らんしていても下をうつむく現代人

群馬県みなかみ町立水上中学校 3年 林 漢

夏休み楽しみだけ少し嫌勉強しなきゃ迫る受験

群馬県みなかみ町立水上中学校 3年 石坂 実乃

あたま以外霧にかくれる山々は天空にうくお城かな

群馬県みなかみ町立水上中学校 3年 佐藤 咲綾

しゃぼん玉飛ばすあの子はいつの日か泡のようにきえてゆく

群馬県みなかみ町立水上中学校 3年 佐藤 咲綾

スケジュールまっかに染めた夏季講習インクかたまる「遊ぶ日」の青

群馬県みなかみ町立水上中学校 3年 野村 麗

駆け出した君から散ったひとひらの金木犀に落とす口づけ

愛知県立旭丘高等学校 2年 渡邊 美愛

あの子かな？期待したけどお母さんLINEの返事はまだこない

群馬県立沼田高等学校 1年 元宿 響

勉学に励むが結果虚しくて大学受験には程遠い

群馬県立沼田高等学校 1年 田村 流聖

高校を入学したては希望持ち今では成績めっちゃ落つ

群馬県立沼田高等学校 1年 田村 流聖

夏休み川で泳いで楽しんだあるときももう過去となったな

群馬県立沼田高等学校 1年 高井 隼太

寒い朝毛布どかさそう思ったが体動かさず夢の続きへ

群馬県立沼田高等学校 1年 高橋 佳稀

どれほどの多くを費やしとごごとく打ちひしがれし努力と結果

群馬県立沼田高等学校 1年 片野 通斗

諦めない心何事にも挑戦し続けていくその心が僕達を強くしてくれる

群馬県立沼田高等学校 1年 飯塚 亮太

早起きはとてもしんどい眠過ぎてそれでもしよう自分のために

群馬県立沼田高等学校 1年 石井 仁

太陽の光を浴びるとあたたかいすると隠れるぬくもり消える

群馬県立沼田高等学校 1年 林 竜次

みなかみの自然はすごいきれいです青みが増した空気のうまさ

群馬県立沼田高等学校 1年 林 竜次

高きカベそれを越えても立ちほだかるそれらを越えて見る景色

群馬県立沼田高等学校 1年 富澤 仁翔

朝起きてとても寒いと感じる今日冬が近くに迫ってる

群馬県立沼田高等学校 1年 久保 聖也

昼下り朝の寒さは消えていて日の光がとても心地良い

群馬県立沼田高等学校 1年 久保 聖也

休みの日することもなく暇をしてそのひとときがとても大切

群馬県立沼田高等学校 1年 久保 聖也

高校に入学して半年も月日が進み今年も終わる

群馬県立沼田高等学校 1年 志村 奏空

こたつの中迎えにこない猫たちが知らせてくれる冬の訪れ

群馬県立沼田高等学校 1年 武井 優真

電車内背筋のばして農夫達ヒルの間にセンターフライ

群馬県立沼田高等学校 1年 小林 瀬南

フィールドを遠く見ていた雨の日の自分も秋の紙には紙の

群馬県立沼田高等学校 1年 小林 瀬南

みんなでねいっばいがんばる体育祭勝つてもみんなが笑顔

群馬県立沼田高等学校 1年 小林 瀬南

あらかいあたり見回すと紅葉だいつばい見てみる感じろナイチャー

群馬県立沼田高等学校 1年 星野 晴日

冬こたつ私を捕まえるはなさない体を奪われこたつのとりに

群馬県立沼田高等学校 1年 松井 大和

待つではなく自ら行き何かすれば美しい宝が帰ってくる

群馬県立沼田高等学校 1年 佐藤 心音

雲り空上向き眺めていればきつといつかは変化ある

群馬県立沼田高等学校 1年 佐藤 心音

昔の記憶長く深く思い出せばいつのまにか修行している

群馬県立沼田高等学校 1年 佐藤 心音

緑黄色いつのまにか踏んでいてきつと赤も泣いている

群馬県立沼田高等学校 1年 佐藤 心音

その困難その時思えばいとつらしだが未来見ればそれ一生の宝

群馬県立沼田高等学校 1年 阿部 大翔

声上げて部活に走る早い朝夢の舞台へ突っ走る

群馬県立沼田高等学校 1年 加藤 泰斗

見渡せば白く降りゆく雪の中温もり感じる手編みのマフラー

群馬県立沼田高等学校 1年 五十嵐 優翔

ほぼ毎日付き合っている白い布取れる日はいつ来るのだろうか

群馬県立沼田高等学校 1年 五十嵐 優翔

静寂の夜中に響く弦の音君に届けと奏でる旋律

群馬県立沼田高等学校 1年 桐澤 佳大

我が家ももうすぐ朽ちる秋風に揺れて動いた一林の萩

群馬県立沼田高等学校 1年 小野 優太

寒い中客でにぎわうスキー場家族と滑る楽しい思い出

群馬県立沼田高等学校 1年 綿貫 心大

いざ部活目指すは予選勝つていくしかしけれど壁いと高し

群馬県立沼田高等学校 1年 星野 太駕

木の上で鳥のさえずり聞きながら長く長く君を待つとき

群馬県立沼田高等学校 1年 星野 太駕

北風が飢えた動物おびえさせ唐紅の終わりを告げる

群馬県立沼田高等学校 1年 長濱 真砂生

夏の日に思い出してくあの記憶あの日の僕にいと戻りたい

群馬県立沼田高等学校 1年 山本 夢翔

紅葉が寂しく散って秋終わり冬の始まり庭霜降りる

群馬県立沼田高等学校 1年 後藤 雄紀

美しき一夜の中の月影よ届いておくれ空のあなたへ

群馬県立沼田高等学校 1年 清水 朝光

川の中無音の空間落ちついて肌で感じる季節の変わり目

群馬県立沼田高等学校 1年 阿部 桔平

弓を持ち矢をつがえたら姿勢良く力いっばい弦を引き抜く

群馬県立沼田高等学校 1年 見辺 笹馬

用水路猫とたわむれとるナマズ素揚げでいたたく山の幸

群馬県立沼田高等学校 1年 星野 泰輝

つかんだら冷めたさ感じるかたまりはほくに冬のおとすれ知らせる

群馬県立沼田高等学校 1年 藤井 歩夢

冬の山に登りて絶景と紅葉を見て感動する

群馬県立沼田高等学校 1年 根岸 知哉

冬の朝寒さに目を開け準備をし朝練をして汗輝やく

群馬県立沼田高等学校 1年 入澤 琉穂

大会のスタートラインに足揃う緊張とともにピストルの音

群馬県立沼田高等学校 1年 入澤 琉穂

県駅伝みんなの想いを一つに汗と涙のたすきをつなげ

群馬県立沼田高等学校 1年 入澤 琉穂

冬の空紅葉散って寒そうだから来年まで準備期間

群馬県立沼田高等学校 1年 入澤 琉穂

輝やきたる真冬の夜の星々は願ひ叶える流れ星かな

群馬県立沼田高等学校 1年 石垣 伶

スワローズ下馬評では見下されペナントで見た大逆転劇

群馬県立沼田高等学校 1年 森田 悠聖

私の音みんなの音がおとずれるそれを感じる喜びだった

群馬県立沼田高等学校 1年 松井 凌大

秋の日に小川を流れる水流に赤く映える夕日かな

群馬県立沼田高等学校 1年 荒田 樹奈

この一年どれほど挫折したろう部活に勉強休みをください

群馬県立沼田高等学校 1年 栗原 陽樹

朝起きて冷たい室内肌寒い少し前まで暑かったのに

群馬県立沼田高等学校 1年 栗原 陽樹

きれいだな赤に染まりし紅葉よみなほれてゆくみなかみ自然

群馬県立沼田高等学校 1年 戸丸 晶人

紅葉散り秋もそろそろ終わりそう同時に始まる冬の台頭

群馬県立沼田高等学校 1年 塩谷 拓人

美しき我らの故郷みなかみ町都会の人も皆カミング

群馬県立沼田高等学校 1年 星 遥輝

日沈み暗き中で冬の海荒れる声する寒さとともに

群馬県立沼田高等学校 1年 角田 慎太郎

満開の桜とともに入学し再び咲けば卒業となる

群馬県立沼田高等学校 1年 角田 慎太郎

俺ん家を左に曲がつて右折してまっすぐ進むとヴェラ

群馬県立沼田高等学校 1年 和田 陽雅

俺ん家を左に曲がつて右折してまっすぐ進むとペラヴィータ

群馬県立沼田高等学校 1年 和田 陽雅

授業中打ちつけ紙を渡されて短歌を書けとはいわずらわし

群馬県立沼田高等学校 1年 番場 煌明

ネタもなくおもしろみのない歌かけばなんのためにと己に問ふ

群馬県立沼田高等学校 1年 番場 煌明

テスト前今回こそと思うけどひらいた脳の中はからっぽ

群馬県立沼田高等学校 1年 平井 俊輔

勉強と部活の両立大変だけど楽しい高校生活

群馬県立沼田高等学校 1年 松井 翔夢

霜が降り葉が枯れ感じる立冬におでんを囲む家族の憩い

群馬県立沼田高等学校 1年 吉野 公人

寒い朝こたつの中でお茶するこれが平和気づいたんだ

群馬県立沼田高等学校 1年 吉野 蓮治

ストーブにあたりながら着がえてるずっと言ってる「寒い」と

群馬県立沼田高等学校 1年 吉野 蓮治

秋の朝庭一面に霜がはるちかづいてきた冬の訪れ

群馬県立沼田高等学校 1年 相澤 天希

雪積もり辺り一面雪化粧音が聞こえる元気な子たち

群馬県立沼田高等学校 1年 米田 海渡

声響くグラウンドでの選手たち優勝まであと一勝

群馬県立沼田高等学校 1年 米田 海渡

もし一度生まれ変わることできるなら犬になつて愛されたい

群馬県立沼田高等学校 1年 島田 大輝

雪が降る雪かきをするかたわらで雪を樂しむ子供かな

群馬県立沼田高等学校 1年 生方 日悠

十位くらい目指してがんばるテストだが順位叶わず Don't cry

群馬県立沼田高等学校 1年 星野 温樹

夏の夜静かに響く虫の音が僕の心を響かせる

群馬県立沼田高等学校 1年 北村 陵真

冬の明け方寒さ耐えぬ袋を出て外を見れば触れる白雪

群馬県立沼田高等学校 1年 田村 充喜

なかなか色濃くなりぬ秋の木々過ぎてしまつかこの季の景色

群馬県立沼田高等学校 1年 高柳 壮汰

ぐつぐつと定期テストで眠る僕夢の中ではとる百点

群馬県立沼田高等学校 1年 阿部 拓真

左の子いつなんどきでも食べているおにぎりおかしもぐもぐたべる

群馬県立沼田高等学校 1年 金子 善

山道をガタガタゆるるバスの中木々を照らす秋の夕暮れ

群馬県立沼田高等学校 1年 平形 柊馬

人間のスタートライン生後かなゴールラインは死後かな

群馬県立沼田高等学校 1年 八高 蓮

秋の空でんとうむむときみとぼくかたにとまりて秋の風物詩

群馬県立沼田高等学校 1年 吉野 力矢

家に着く勉強しろとどなり声飼猫だけが僕の味方か

群馬県立沼田高等学校 1年 遠藤 寛大

冬の朝窓から見える雪景色うさぎの足跡山へと続く

群馬県立沼田高等学校 1年 原沢 龍斗

冬の朝起きられない寒すぎて学校へ行くのはもつといやだ

群馬県立沼田高等学校 1年 田中 寧和

秋風で香り運ばれ鼻につくたどつてみれば紅葉日和

群馬県立沼田高等学校 1年 林 聖将

音楽のテストの日の朝ピーピー鳴り響いているリコーダーの音

群馬県立沼田高等学校 1年 松井 快主

今の時代ワクチンうっただけなのに安心すんな外出すんな

群馬県立沼田高等学校 1年 萩原 心輝

長距離走先生厚着ばく薄着速く走れと厚着で言うな

群馬県立沼田高等学校 1年 萩原 心輝

ファイターズ勝ちへ導く新庄剛志バ・リーグ制していざ日本一

群馬県立沼田高等学校 1年 米山 堅

月光の形に残らぬ思い出を今日の夜空に一人眺める

群馬県立沼田高等学校 1年 川端 清矢

秋風が廃れた木の葉を吹き上げるただそれを見る一輪の花

群馬県立沼田高等学校 1年 川端 清矢

橋上で君と語ったこれからも水影映る今は一人と

群馬県立沼田高等学校 1年 川端 清矢

男子校四方八方雄ばかり彼女おる者許すまじやと

群馬県立沼田高等学校 1年 岩淵 壮馬

登下校チャリンコいやだバスもやだやっぱ俺は自家用車

群馬県立沼田高等学校 1年 岩淵 壮馬

家族なし我しかいない休日はいつも美味しい飯もいまいち

群馬県立沼田高等学校 1年 栗原 晋作

そよ風に秋の落葉がまざりけりふりかかりて広がる絶景

群馬県立沼田高等学校 1年 高橋 良太

聳え立つ耳の白金^{しろかね}に並べて輝く細雪^{さいゆき}かな

群馬県立沼田高等学校 1年 石飛 樹

青春の五線譜にのせる僕の夢明日の僕を奏^{みらい}するために

群馬県立沼田高等学校 1年 小野 愛翔

星空のキャンバスにある一等星あの輝きに近づきたい

群馬県立沼田高等学校 1年 小野 愛翔

帰り道バスに乗ろうと十分後やつときたバス回送だ

群馬県立沼田高等学校 1年 小淵 俊樹

成功と失敗の糸継ぎ合わせ編み上げたのは魔法の絨毯

群馬県立沼田高等学校 1年 岸野 智也

箱に住む窓の外を眺める魚三年たてば消える雲かな

群馬県立沼田高等学校 1年 北山 桂月

朝6時語らいながら行く道の分かれて友とふりあう手

群馬県立沼田高等学校 1年 北山 桂月

試せどもまた試せども伝わらぬこれも悲しき世の定めか

群馬県立沼田高等学校 1年 クレイグ翔音

夏の空コートで輝く我が先達回想続ける星空の下で

群馬県立沼田高等学校 1年 小山 陽大

一発芸当たりとはずれが存在するどちらも場を和ます最高の手

群馬県立沼田高等学校 1年 清水 龍斗

勉強中通知音なるだれだろうきたのは親の「ご飯できたよ」

群馬県立沼田高等学校 1年 鈴木 勘太

盈月を一人見つめて思うのは月の様はあなたの瞳

群馬県立沼田高等学校 1年 鈴木 聖人

漆黒^{しつこく}を美麗^{びれい}に照らす銀湾^{ぎんわん}か久遠^{くおん}に続く光芒^{こうぼう}のよう

群馬県立沼田高等学校 1年 高橋 風輝

木の葉落ち見て感じるうつろいをおにぎり片手にただずつと眺めてる

群馬県立沼田高等学校 1年 津久井 皇貴

秋風で寒さ厳しき体育館ばくわひとりてゴールとにらめっこ

群馬県立沼田高等学校 1年 津久井 皇貴

あのころの夢へと向かう今まさに枕に向かうペンと消しゴム

群馬県立沼田高等学校 1年 津久井 皇貴

失恋や買ったパピコも一余りいつもより苦いコーヒーの味

群馬県立沼田高等学校 1年 土屋 英司

身が入みて口から湯気を吹き出すと冬の手紙が山から届く

群馬県立沼田高等学校 1年 都所 胡太

外見れば光輝く霜芝生ねぼけし我は金剛と思ふ

群馬県立沼田高等学校 1年 都所 胡太

あと一年終わりを告げる我が母校あの日の記憶忘れはしない

群馬県立沼田高等学校 1年 富沢 裕次郎

かじかむ手朝の寒さを物語る白い息も冬の訪れ

群馬県立沼田高等学校 1年 野原 優

ねんころり授業もいえもねんころり仕事もうちもねんころり

群馬県立沼田高等学校 1年 白 智宇

秋麗の車から見る二つの耳赤くならず白くなる

群馬県立沼田高等学校 1年 原澤 秀太郎

秋の日の利根川に浮かぶもみじの葉坂東一の赤い絨毯

群馬県立沼田高等学校 1年 原澤 秀太郎

流星群月明りに隠されて五つと見えぬ悲しき空かな

群馬県立沼田高等学校 1年 藤岡 空我

四時間目五文字七文字あれこれと増える候補減るお腹

群馬県立沼田高等学校 1年 星野 陽

ぼんやりと疲れた僕の目に映る白い花弁夢か現か

群馬県立沼田高等学校 1年 星野 楓雅

遅咲きの華麗なる花咲いた頃移り変わった蜜蜂の心

群馬県立沼田高等学校 1年 宮本 漣

暗闇に照り映えている火の光この薪^{たきぎ}さん長くは続かず

群馬県立沼田高等学校 1年 宮本 漣

外出れば鳥肌止まらぬ季節だが未だに木々の変化見られず

群馬県立沼田高等学校 1年 村山 耕汰

夜八時見上げた空にはオリオン座彼が知らせる白い季節を

群馬県立沼田高等学校 1年 村山 耕汰

宙に舞うまだ降り立ての粉雪を窓辺で眺める君を想う

群馬県立沼田高等学校 1年 山田 卓磨

今は無きいつも見ていたその瞳駅のホームでふと蘇る

群馬県立沼田高等学校 1年 山田 卓磨

登る坂振り向き見ればそこにある流れる利根川夏の走り込み

群馬県立沼田高等学校 1年 吉野 亮

朝早く電車の中で酔いながら早く着けよと願う毎日

群馬県立利根実業高等学校 1年 村田 優希

茶道部の練習の時正座して足が痺れて歩みが止まる

群馬県立利根実業高等学校 1年 村田 優希

悲しくて涙を流す私をそっと見つめる花の顔

群馬県立利根実業高等学校 1年 高橋 小百合

もくもくと空に広がる積乱雲雷が鳴り雨も本降り

群馬県立利根実業高等学校 1年 山崎 愛羅

パラパラとページめくる手光照らす私と月と「真夜中乙女戦争」

群馬県立利根実業高等学校 1年 中村 依奈

衣替えもう着れないと見つけては笑顔で受け取るあの子へおさがり

群馬県立利根実業高等学校 1年 中嶋 莉那

夏終わり秋が始まりはだ寒いこれも季節の変わり目だ

群馬県立利根実業高等学校 1年 後閑 紅雅

帰り道きつい坂でも友達と一緒に歩けば楽しくなる

群馬県立利根実業高等学校 1年 竹内 夢愛

君のため朝日より早くリップつけ気付いてくれないクールな人よ

群馬県立利根実業高等学校 1年 松井 美瑠

籠耳よチヨークの音すらさえずって表彰状さえ孤独に見える

群馬県立利根実業高等学校 1年 松井 美瑠

朝時雨ぱつぱつりと軒下へ君らはもうすぐ水柱になるの？

群馬県立利根実業高等学校 1年 松井 美瑠

いつの日か友がくれたいちようの葉見るとび君が思い出される

群馬県立利根実業高等学校 1年 小宮 羽菜

毎年の秋焼の中神奈月未人が集まる仮装南瓜祭^{ハロウィン}

群馬県立利根実業高等学校 1年 井上 和仁

妹よできれば話を聞いてくれ視線はずつと自分のケータイ

群馬県立利根実業高等学校 1年 堀江 紅留未

昔ではすごく小さかった妹が今ではすっかり大きくなった

群馬県立利根実業高等学校 1年 堀江 紅留未

また増えた私のかわいい猫ちゃんたちたまにひろってくる野良猫たち

群馬県立利根実業高等学校 1年 堀江 紅留未

指先が冷たくなるのを感じたら人肌恋しき今日は冬なり

群馬県立利根実業高等学校 1年 関根 百合音

授業中ひまになったらする妄想強盗たおして自分がヒーロー

群馬県立利根実業高等学校 1年 小林 幸聖

思い出が雫となつて足元の水溜りさえ広がるように

群馬県立利根実業高等学校 1年 和南城 夢羽

叶うならいつか二人で帰り道ふと我に返り頬染める

群馬県立利根実業高等学校 1年 堀江 心

ドアノブの輝きを見て思い出す目を奪われた吹奏楽部

群馬県立利根実業高等学校 1年 鈴木 溜奈

いつのひか恋人と見た星空もいつかは消えて夜空のもくず

群馬県立利根実業高等学校 1年 生方 翔子

最後まで命尽きるこ隠したが一人哀しく涙流れる

群馬県立利根実業高等学校 1年 野上 夢奈

何事も興味持つてる弟と話せば知識あふれかえる姉

群馬県立利根実業高等学校 1年 齋藤 舞

小三の弟の話難しい宇宙にハンゲル高一分からず

群馬県立利根実業高等学校 1年 齋藤 舞

青い空私から見た空曇りアライグマ型出てきたような

群馬県立利根実業高等学校 1年 町田 ちなみ

四季変わり秋がおとずれ紅葉があたり一面おおいつくした

群馬県立利根実業高等学校 1年 林 歩未

朝起きて雨上がりの庭見ると紅葉落ちて道染まる

群馬県立利根実業高等学校 1年 佐々木 凛

思いだす今日という日を絶対に忘れもしない愛の告白

群馬県立利根実業高等学校 1年 佐々木 凛

サンタさん今年もよい子にしてみました願う私に母苦笑い

群馬県立利根実業高等学校 1年 武井 杏樹

秋の暮寒さの中ではめてみる母のぬくもり暖かきかな

群馬県立利根実業高等学校 1年 武井 杏樹

冬の空静けさの中空見上げ白く輝くまぶしい満月

群馬県立利根実業高等学校 1年 片桐 香菜

夕立が上がったあとに見えたのはキレイな虹とやさしい光

群馬県立利根実業高等学校 1年 片桐 香菜

風鈴揺れる夏の子ども声に幼き頃を思い出す

群馬県立利根実業高等学校 1年 桑原 凛

雨降ると家にももって読みふける気づけば空に七色の光

群馬県立利根実業高等学校 1年 宮内 光里

バレエ部のエースに僕はなるために今日もひたすら飛び続ける

群馬県立利根実業高等学校 1年 松井 悠希

雨の中友達と下校靴汚れ帰ったら親に怒られるかな

群馬県立利根実業高等学校 1年 近藤 瑠乃

駅をでてライン通知でたちどまり見上げた空に流星群

群馬県立利根実業高等学校 1年 須田 茉綾

山白き秋の空山は雪化粧こんやく掘りは真つ盛り

群馬県立利根実業高等学校 1年 桑原 葉月

見に行こう親に連れられ来た川で輝く蛍今は何処へ

群馬県立利根実業高等学校 1年 高橋 慧太

教室から見た初雪を見ては思い出す去年の君を

群馬県立利根実業高等学校 1年 高橋 沙和

鏡湖池に映える金閣が並ぶ鴨友と見られず一人旅の中

群馬県立利根実業高等学校 1年 吉田 宗太

冬げしき霞色した通学路いつものところで彼を待つ君

群馬県立利根実業高等学校 1年 吉田 宗太

家族写真あふれる笑顔虹のよう夢の一日思い出一生

群馬県立利根実業高等学校 1年 秋元 はな

月を見ずだんごむさぼり月見かなこたつにくるまり牛になりそう

群馬県立利根実業高等学校 1年 青木 柚子

電話ごし月が綺麗と僕は言う無邪気な君に届くはずもなく

群馬県立利根実業高等学校 1年 井上 結愛

放課後に2人で帰った通学路顔が赤いのは夕焼けのせいかな

群馬県立利根実業高等学校 1年 入澤 心

帰り道先が見えなく不安ありポツポツとある光をたどる

群馬県立利根実業高等学校 1年 大澤 権音

授業中しんとした中窓見ればばらばら落ちるかれた葉が

群馬県立利根実業高等学校 1年 大澤 権音

平日は眠いと言うが休日とあまり変わらぬ朝を迎える

群馬県立利根実業高等学校 1年 大坪 由里菜

顔合わせ毎年振袖新調し白無垢ながめ顔赤くする

群馬県立利根実業高等学校 1年 金井 由美

また明日同じことの繰り返しそんな日々が思い出となる

群馬県立利根実業高等学校 1年 倉品 肖那

入学し気付けば半年たっている時の流れははやいと感じる

群馬県立利根実業高等学校 1年 小池 蒼空

夕暮れの寂しさ残る空見上げ思い出すのは昔の記憶

群馬県立利根実業高等学校 1年 小菅 杏佳

放課後は速く帰って休みたい誰もが思う願ひ事かな

群馬県立利根実業高等学校 1年 後藤 陽香

窓のそばその席座る君を見てなびく髪の毛君に惚れた日

群馬県立利根実業高等学校 1年 小林 千夏

寒い部屋指先凍るとストーブを付ければ鳴った灯油消れ

群馬県立利根実業高等学校 1年 志賀 香音

あの頃の友と過ごした毎日が恋しいけれど今も楽しき

群馬県立利根実業高等学校 1年 関 優輝

空見ればきれいに輝く秋の虹まぶしく光る君の後ろ姿

群馬県立利根実業高等学校 1年 高橋 美来

カップルがドヤ顔しながら通りすぎやさしくほえむ君のとなりで

群馬県立利根実業高等学校 1年 田村 愛花

冬の星を見ながら帰ったあの夜は暗くても分かる赤く冷たい耳

群馬県立利根実業高等学校 1年 千明 世愛

祖母の味真似してみるもほど遠い祖母との会話ただ弾むのみ

群馬県立利根実業高等学校 1年 千明 実生

距離だけは近づいたのに存在は遠い尊し叶わない恋

群馬県立利根実業高等学校 1年 角田 佳奏

大切だ夢を持つこと未来にはたたくさんの夢たたくさんあるぞ

群馬県立利根実業高等学校 1年 戸川 翔

今年こそ彼氏作ると意気込むがいつになっても空いている隣

群馬県立利根実業高等学校 1年 戸山 春和

誰もいないこたつにはいると先客が不機嫌な君愛らしく思う

群馬県立利根実業高等学校 1年 中澤 夢

懐かしいひんやりとした冬の風また思い出す部活のつらさ

群馬県立利根実業高等学校 1年 中村 海斗

石焼きいもとても美味しくできたけどやっぱりスイートポテトが食べたい

群馬県立利根実業高等学校 1年 南雲 彩香

本を読み読んだ後に雫落ちふと顔を上げると広い青い空

群馬県立利根実業高等学校 1年 福井 春

ばらばらとページをめくれば目に留まる本気で印したマーカーの跡

群馬県立利根実業高等学校 1年 古谷 仁奈

雪かきを終えたと言った我が父はまがった腰を痛いと叩く

群馬県立利根実業高等学校 1年 増田 鈴世

冬景色空飛ぶ鳥を眺めてく季節感じる寒さのごとし

群馬県立利根実業高等学校 1年 町田 まなみ

お祭りで見てよ見てよと声かける目の前にある知らない顔

群馬県立利根実業高等学校 1年 松井 紫音

夢を見たとても怖いのが友達と語ればただの話の種に

群馬県立利根実業高等学校 1年 松井 成歩

雨上がり気分乗らずに行く散歩空は輝きそこに虹かな

群馬県立利根実業高等学校 1年 村田 瑛音

部活動暑い中でも頑張るよ報われるから希望への道

群馬県立利根実業高等学校 1年 諸田 はるな

ふとんから出たら極寒中入る逆に極暖どちらも地獄

群馬県立利根実業高等学校 1年 八木 里実

「このおでこ広くて嫌い」君が言う僕にとっては愛しいおでこ

群馬県立利根実業高等学校 1年 山崎 日瑠里

いつもより綺麗に化粧をする友の話聞くのは私の役目

群馬県立利根実業高等学校 1年 山崎 日瑠里

ランドセル背負って行った学校は時に嬉しく時に悲しく

群馬県立利根実業高等学校 1年 山崎 龍誠

大好きと何度言っても届かない遠くの人に思いを抱く

群馬県立利根実業高等学校 1年 吉池 輝波

転んだり失敗しても大丈夫人生これから成功ありけり

群馬県立利根実業高等学校 1年 青木 脩登

通話中切らずに寝ていた僕の声君に聞かれてはすかしきかな

群馬県立利根実業高等学校 1年 青木 脩登

一人きり夜空を見上げ流星群願ひ事言えずまた言えず

群馬県立利根実業高等学校 1年 青木 脩登

一生を過ごす決めた君の肩に綺麗に止まる紫蝶々

群馬県立利根実業高等学校 1年 石田 隆一

帰り道たまに聞こえるねこの声見つけては逃げ夜道に消える

群馬県立利根実業高等学校 1年 石田 隆一

櫻散るその町中を眺めてた櫻散るたび悲しみが増す

群馬県立利根実業高等学校 1年 井上 太貴

冬の空星が綺麗に見えていた夏より冬の空は美しく

群馬県立利根実業高等学校 1年 井上 太貴

元気ないあなたの姿見るだけで雨が降りだす私の心

群馬県立利根実業高等学校 1年 宇敷 怜奈

はりきつて鏡と向き合う朝日和あしどり軽くまちはあわせ場所

群馬県立利根実業高等学校 1年 宇敷 怜奈

昨日まで緑でそまつた草木たち秋のおとずれ告げるおきがえ

群馬県立利根実業高等学校 1年 小野 龍星

肌寒いベランダに出て電話する眠たいけれど切りたくないな

群馬県立利根実業高等学校 1年 加藤 大雅

近道の上から見える滑走路明かり点々と夜の町並み

群馬県立利根実業高等学校 1年 河合 蒼太

山の肌白さに尚更寒くなる十月でもう冬の景色か

群馬県立利根実業高等学校 1年 河合 蒼太

まだ9月咲いてしまった金木犀異常気象だ日本は無事か

群馬県立利根実業高等学校 1年 河合 悠真

自転車を押すと暑くて走ると寒いパーカ着たまま腕まくりする

群馬県立利根実業高等学校 1年 河合 悠真

積みあがる悩みと雪のおもさからしたくもなるよ現実逃避

群馬県立利根実業高等学校 1年 郷原 涼輝

日没とともに消えゆく学生と足もとからのびていた影

群馬県立利根実業高等学校 1年 郷原 涼輝

寒い朝ふとんの中から見える外畑けおちる白いしも

群馬県立利根実業高等学校 1年 塩原 佑弦

立ち止まり天見る君の目に映る輝く希望とときめくわたし

群馬県立利根実業高等学校 1年 曾田 光流

君の瞳に引き込まれながら食べるからいつもより早くアイスが溶ける

群馬県立利根実業高等学校 1年 曾田 光流

見回せば彼女持ちの友増え始め次は俺だとチャンスうかがう

群馬県立利根実業高等学校 1年 高井 煌晟

我周り一見回せば彼女持ちの友増え始め次は俺だとチャンスうかがう

群馬県立利根実業高等学校 1年 高井 煌晟

寒空に君を求めてつないだ手が先に温かくなる

群馬県立利根実業高等学校 1年 仲澤 由依

帰り道枯れた葉っぱに穴あけて笑う弟ああハロウィンだな

群馬県立利根実業高等学校 1年 仲澤 由依

季節かと思わせられる恋心夏は盲目枯れるは冬かな

群馬県立利根実業高等学校 1年 仲澤 由依

変わりゆく季節年月人心変わらぬままであの日の思い出

群馬県立利根実業高等学校 1年 仲澤 由依

愛犬とコタツに入りぬくぬくと飼い主に似るとはまさにこれなり

群馬県立利根実業高等学校 1年 橋壁 昊

思い出すあの日の緊張受験日の頭も地面も真っ白になる

群馬県立利根実業高等学校 1年 橋壁 昊

朝起きて遅刻遅刻とバタバタと友と一緒に道路を進む

群馬県立利根実業高等学校 1年 原 葵登理

夏も過ぎ朝もさめればぶるぶると秋も来たかと秋刀魚を頼張る

群馬県立利根実業高等学校 1年 原 葵登理

夏終わり秋が来たかと思つたらすぐさま冬に秋は何処へ

群馬県立利根実業高等学校 1年 原 悠也

早く雉それよりゆつくり落ちていて時間をかけていねいな作業

群馬県立利根実業高等学校 1年 原 悠也

ガチャガチャで出てきた種は大らかな隠語からとって名前はこちらに

群馬県立利根実業高等学校 1年 廣橋 杏馬

この虫は何を思つてこの場所へ火に入るあなたにまたキンチョール

群馬県立利根実業高等学校 1年 廣橋 杏馬

腹の音が周囲の音をかきつけて恥ずかしくなるまだ四時間目

群馬県立利根実業高等学校 1年 水尻 和吹

呼んでいるもしやと思いを覚ますやはり的中ここ終点

群馬県立利根実業高等学校 1年 水尻 和吹

部活後は部屋に戻り友達と弾む会話で心も弾む

群馬県立利根実業高等学校 1年 宮田 翼

目覚めれば朝寒感じて二度寝かな横から聞こえるアラームの音

群馬県立利根実業高等学校 1年 山田 勇心

止まりなさい信号機が指令だすと立ち止まり車行きかう

群馬県立利根実業高等学校 1年 山田 勇心

名月か夜空を飾る星の化粧団子を囲みてため息をつく

群馬県立利根実業高等学校 1年 我妻 璃一

色変わる街の景色が雪化粧心がおどる季節がきた

群馬県立利根実業高等学校 1年 我妻 璃一

君のつと例えるならば日天子わたしは君を守る月影

群馬県立利根実業高等学校 1年 小林 廉

すれ違い会釈をすれば微笑んで会釈を返す田舎の風景

群馬県立利根実業高等学校 1年 佐々木 大河

帰り道一人見上げる星空が悲しく感じる冬の寒さに

群馬県立利根実業高等学校 1年 佐々木 大河

ひたすらにレシーブ返す横顔に枯れない愛の花が開いた

群馬県立利根実業高等学校 1年 鈴木 旋瑠

惚れこんだあなたの笑顔を守りたい心に決めた愛する花を

群馬県立利根実業高等学校 1年 鈴木 旋瑠

優等生言われる重圧重すぎて逃げ出したくなるテスト直前

群馬県立利根実業高等学校 1年 高橋 友斗

友達と二人で話す通学路まだまだ続けと願う道のり
群馬県立利根実業高等学校 1年 高橋 友斗

秋思う中学時代の旅行先あの時の友今はいずこ
群馬県立利根実業高等学校 1年 田村 悠朔

雪積もる通学カバンに通学路道は白くて顔は赤くて
群馬県立利根実業高等学校 1年 田村 悠朔

おつかれ仲間と歩く暗い道部活終わりのラーメン一杯
群馬県立利根実業高等学校 1年 中島 龍

寝る前の静かな時間1人きり私を満たすノイズキャンセル
群馬県立利根実業高等学校 1年 中島 龍

いろいろな言葉がうかぶけど好きの一言それだけが
群馬県立利根実業高等学校 1年 笛木 健佑

膝の上まるくなってるうちの猫おかげで心もよくあたたまる
群馬県立利根実業高等学校 1年 水落 多恵

目が合っただけで時間が止まるんだ話したいことたくさんあるのに
群馬県立利根実業高等学校 1年 水落 多恵

自転車毎朝下る地元の坂暴風くらい髪崩れる
群馬県立利根実業高等学校 1年 村上 幸輔

新しき朝が来てはカーテン開き「今日も頑張れ」朝日に照らされる
群馬県立利根実業高等学校 1年 村上 幸輔

できないの？馬鹿にしないでこんなでも頑張ってるよとつくに限界
群馬県立利根実業高等学校 1年 山之内 知夏

ありがとう君の笑顔が大好きだ明日はこんなふうになんか笑おう
群馬県立利根実業高等学校 1年 山之内 知夏

休日の試合が終わるつれづれ自分のごほうびはアイス
群馬県立利根実業高等学校 1年 吉岡 嗣功

静かなりポツリポツリと滴る雨足追いかけるように足音鳴らす
群馬県立利根実業高等学校 1年 田子 竜次郎

気づいてよ一途に思うこの気持ち強まる心はせきこむほどに
群馬県立利根実業高等学校 1年 田子 竜次郎

星空のもとで鳴るのは美しくパチパチと散る線香花火
群馬県立利根実業高等学校 1年 川田 伊織

リハビリの辛さを越せば待つている安らぎ目指し今日も筋トレ
群馬県立利根実業高等学校 1年 川田 伊織

普通のね生活できることすらね幸せ感じた入院生活
群馬県立利根実業高等学校 1年 川田 伊織

永平寺歴史を感じ上を見るその絵はまるで風致のようだ
群馬県立利根実業高等学校 2年 羽賀 太一

学校で過ごす時間は一瞬で気づけばわずか一年のみ
群馬県立利根実業高等学校 2年 松井 柚奈

冬空の星が流れる真夜中に君と見たいな流れ星
群馬県立利根実業高等学校 2年 野上 勇氣

帰り道風にのって今日の夕食匂いにすら家あたたかい
群馬県立利根実業高等学校 2年 五馬 玲奈

寒暖差激しすぎて腹こわす治すためにはホットドリンク
群馬県立利根実業高等学校 2年 石田 将義

行事から進路に勉強盛り沢山あつという間に高二が終わる
群馬県立利根実業高等学校 2年 中林 花恋

最近ではコロナのせいで何もかも値上がり放題お金は無くなり放題
群馬県立利根実業高等学校 2年 笠原 瑠々花

空見れば月がまだいる冬の朝まだまだ見せる朝日よ昇るな
群馬県立利根実業高等学校 2年 星野 琥太郎

冬空の星が輝く暗闇で震える体に白い息
群馬県立利根実業高等学校 2年 井口 玲桜

風打たれ散る枯れ葉見た寂しさは緑かがやくその瞬間まで
群馬県立利根実業高等学校 2年 宮野 真

もう寝てる？暗い部屋でささやいて小さな声からはじまる世間話
群馬県立利根実業高等学校 2年 平井 華耶奈

友と見た旅館からの秋の海冷たい風と温かな声
群馬県立利根実業高等学校 2年 関 姫愛

帰り道友と一緒に見た夕日秋風忘れ心温まる
群馬県立利根実業高等学校 2年 関 姫愛

いつもより楽しい日々はいたすらに過ぎてゆくもの夜長とともに
群馬県立利根実業高等学校 2年 大澤 柚香

白色に包み込まれた我が家は緑と赤でかざられる
群馬県立利根実業高等学校 2年 猪熊 雪乃

暖の中まんなまんなになった我愛猫正月もちにそっくりすぎる
群馬県立利根実業高等学校 2年 猪熊 雪乃

部屋中に響き渡った笑い声その時・今も一生の思い出
群馬県立利根実業高等学校 2年 間嶋 美結

教室が飾りつけられ夢の世界片づけ終わり静かな教室
群馬県立利根実業高等学校 2年 間嶋 美結

百パーの降水確率お願する旅行前夜にてるてるぼうず
群馬県立利根実業高等学校 2年 三浦 真綾

いつも見る白い雲と青い空みんながいたから特別だった
群馬県立利根実業高等学校 2年 加藤 瑠菜

雨が止む雨音からの笑い声みんなの力で雨雲どけた
群馬県立利根実業高等学校 2年 加藤 瑠菜

ある朝の真夏にかかる虹の橋友と見た景色忘れぬ懐い
群馬県立利根実業高等学校 2年 織田 果凜

夕暮れの寒さを凌ぐ肉まん友と食すほてるぬくもり
群馬県立利根実業高等学校 2年 織田 果凜

電車の中しもおおわれる畑たちそろそろ雪も降るころかな
群馬県立利根実業高等学校 2年 阿部 朱葉

やきいもほつかほかでおいしいなまいにちでも食べていたい
群馬県立利根実業高等学校 2年 阿部 朱葉

セミの声聞けば思い出す自慢げにハンドル握りにはかむ君
群馬県立利根実業高等学校 2年 水越 万葉

奇跡とはあるものだと時間過ぎ君との会話続けたくて
群馬県立利根実業高等学校 2年 水越 万葉

寒い中換気のためとあけた窓人の冷気にごえた体
群馬県立利根実業高等学校 2年 藤井 乃々香

水面に浮かぶもみじと曇り空朱色が映える美しき季節
群馬県立利根実業高等学校 2年 清水 ありさ

霜おりて冷える体やから風と暑さわすれる神無月かな
群馬県立利根実業高等学校 2年 小野 彪雅

りす探し天井見るみな面白い自分は検索楽しみ減らす
群馬県立利根実業高等学校 2年 戸丸 愛斗

凍える手白い息に赤い耳季節の変わり目肌で感じる
群馬県立利根実業高等学校 2年 丸山 未夢

帰り道体震わせ歩く中空見上げると冬景色
群馬県立利根実業高等学校 2年 丸山 未夢

進路相談お菓子か美容か学生の壁その一本目で人生が変わる
群馬県立利根実業高等学校 2年 戸丸 美花

乾燥の季節ハンドクリームは必須さあ戦場の場へ保温を忘れたら地獄の一日
群馬県立利根実業高等学校 2年 戸丸 美花

楽しみに待ってた旅行は雨予報晴れた空見てあの人は晴れ女
群馬県立利根実業高等学校 2年 宮田 美咲

コロナ禍でデイズニランドに行きたいとほぐく親友いや自粛しろ
群馬県立利根実業高等学校 2年 武井 由萌香

自粛しろ私に言った親友もそれなそれなと毎度共感
群馬県立利根実業高等学校 2年 武井 由萌香

気が付けばいつもとなりで笑ってるその顔みるのが私の幸せ
群馬県立利根実業高等学校 2年 須田 蘭

下見れば赤い紅葉やイチョウの葉顔を上げると禪の道場
群馬県立利根実業高等学校 2年 横坂 優衣

二日目の班別体験九谷焼個性溢れたゆのくにの森
群馬県立利根実業高等学校 2年 高橋 希咲

金沢の小雨の空は美しく映えて見えるは昔き景観
群馬県立利根実業高等学校 2年 西尾 和花

吹き荒れた人々襲う雨と風秋の思い出東尋坊
群馬県立利根実業高等学校 2年 西尾 和花

早朝畑の土白くなる霜が降りるこの月頃
群馬県立利根実業高等学校 2年 生方 結葉

帰り道鳴り響く歌焼き芋の声かけられず車去っていく
群馬県立利根実業高等学校 2年 生方 結葉

金沢の雨にうたれてたどりつくおめあてゲット金澤プリン
群馬県立利根実業高等学校 2年 藤ノ木 涼夏

秋の朝かすみがかつた窓の外やさしい波に心やすらぐ
群馬県立利根実業高等学校 2年 長谷川 茉奈

思いを込め君へ贈るプレゼント慌てる君が微笑ましい
群馬県立利根実業高等学校 2年 中村 楓佳

どうかたと服を見せてくる君に向け流れる星に奇跡を希う
群馬県立利根実業高等学校 2年 中村 楓佳

夏の夜花火大会友達と楽しい思い出屋台とともに
群馬県立利根実業高等学校 2年 田川 遥東

雪積もり足あとと残る通学路白い息吐き登る滝坂
群馬県立利根実業高等学校 2年 塗木 優花

ぬくぬくと毛布につつまれ朝が来る窓からのぞく雪景色かな
群馬県立利根実業高等学校 2年 塗木 優花

至近距離轟く雷鳴散る火花紫色に部屋を照らして
群馬県立利根実業高等学校 2年 池田 思奏瑠

寒い朝布団の上で丸くなる飼猫様で暖をとる
群馬県立利根実業高等学校 2年 加藤 琉衣

積もる雪白い世界に感動し寝ている姉を叩き起こす
群馬県立利根実業高等学校 2年 加藤 琉衣

雪が降りいよいよ冬が本格化今年も冬を乗り越えよう
群馬県立利根実業高等学校 2年 高橋 七海

朝起きてカーテン開けたら雪景色今年も冬がやってきた
群馬県立利根実業高等学校 2年 高橋 七海

いつの日かこの日を思いなつかしむこの雨すべて思い出に
群馬県立利根実業高等学校 2年 阿部 くるみ

いつかまた見たいと思つた古風な街と雰囲気のがし茶屋街
群馬県立利根実業高等学校 2年 関 優羽奈

ドアを開けいつてきますと朝の外白い息が冬の始まり
群馬県立利根実業高等学校 2年 大山 歩美

秋がきた肌寒くなりブルブルと思つた頃にはもう冬の時期
群馬県立利根実業高等学校 2年 大山 歩美

雪降りて地面白々綺麗な地残る足跡降り続く雪
群馬県立利根実業高等学校 2年 高橋 佑奈

寒い朝再度布団をたぐりよせまどろみつも二度寝の支度
群馬県立利根実業高等学校 2年 高橋 佑奈

冬の朝寒くてやる気が起きないが今日も一日頑張ろう
群馬県立利根実業高等学校 2年 角田 寧音

一人下校前にはカッパ胸痛い自分もいつか隣がいるかな
群馬県立利根実業高等学校 2年 山崎 ひなた

朝になり凍ごえる寒さ布団からはみ出す私寝そう悪すぎ
群馬県立利根実業高等学校 2年 山崎 ひなた

寒い朝田んぼにしもがおりていとうとう冬がやってきたんだ
群馬県立利根実業高等学校 2年 眞庭 菜月

しもがおりきらきら光る通学路冬の景色とてもきれいだ
群馬県立利根実業高等学校 2年 眞庭 菜月

雪ちらつきみかん準備でコタツ潜り猫も丸まりあつたまった
群馬県立利根実業高等学校 2年 鶴淵 礼菜

外見ると海風吹いて波おどる行き渡るのは海の音かな
群馬県立利根実業高等学校 2年 阿部 楓

帰り道黄色の葉たち足元に冬を感じて立ち止まる
群馬県立利根実業高等学校 2年 山戸 咲理紗

五時間目みんな寝ているウトウトとあと一時間頑張ろう
群馬県立利根実業高等学校 2年 山戸 咲理紗

冬になり庭にきれいなしる景色今年も冬もさむいな
群馬県立利根実業高等学校 2年 矢作 碧琉

冬の夜凍った池の反射は月の光りがきれいだな
群馬県立利根実業高等学校 2年 矢作 碧琉

登校中呼吸をすると白い息好きな季節がやってきた
群馬県立利根実業高等学校 2年 治田 璃実

紅葉の写真の端に君映す偶然装う私の秘密
群馬県立利根実業高等学校 2年 樋目 香果雅

冬だけは甘え上手なうちの犬時節到来一緒にやすみ
群馬県立利根実業高等学校 2年 樋目 香果雅

君と見る景色が全部同じでも視線が違う身長差
群馬県立利根実業高等学校 2年 関根 愛椛

寒くなり冬を感じるイベントやイルミネーションお金の月
群馬県立利根実業高等学校 2年 林 日奈葵

足元に猫が丸まる冬の朝冬の寒さは猫にも効くのか
群馬県立利根実業高等学校 2年 星野 心晴

「明日行く」冬將軍を既読無視とうとうあいつがこにも来るのか
群馬県立利根実業高等学校 2年 星野 心晴

秋終り霜が出てくる朝になり冬が近づくと季節になった
群馬県立利根実業高等学校 2年 新島 颯汰

冬になり朝起きれずに温まる布団の中でやすやすと眠る
群馬県立利根実業高等学校 2年 新島 颯汰

コロナ禍で行き先変更金沢へ友との写真に笑顔咲く
群馬県立利根実業高等学校 2年 金井 沙良

秋終わり雪降りはじめ冬感じスノーボードが楽しみな
群馬県立利根実業高等学校 2年 井上 翔太

めざましが起きてと何度も言うけれどぬくももうふ抜け出せない
群馬県立利根実業高等学校 2年 白井 さら

待ち望んだかには売り切れ悲しいが帰りに赤い月見て喜ぶ
群馬県立利根実業高等学校 2年 生方 綾華

雪虫見つけ雪はまだかとお楽しみで手をかざしては雨から変わった
群馬県立利根実業高等学校 2年 生方 綾華

今日の夜寒くなつてきた近頃は一晚寝たら雪が降るかな
群馬県立利根実業高等学校 2年 牛口 朔弥

雨上がり地面に映るアンブレラ記憶に残るゆのくにの森
群馬県立利根実業高等学校 2年 森原 真花

永平寺晴れた空になびく枝赤黄緑の美しき紅葉

群馬県立利根実業高等学校 2年 川端 真羽

あの日の夜ふと感じた秋の香り風が知らせる紅葉の訪れ

群馬県立利根実業高等学校 2年 川端 真羽

色づいた 山々はもう 枯れた

群馬県立利根実業高等学校 2年 諸田 祐菜

初雪降り 澄んだ空気が すみわたる

群馬県立利根実業高等学校 2年 諸田 祐菜

冬の空 雪玉が空を かけまわる

群馬県立利根実業高等学校 2年 増田 琉生

白い息 もうそろそろで 大晦日

群馬県立利根実業高等学校 2年 増田 琉生

朝晩の気温の変化忙しい寒さに負けず学校へ行く

群馬県立利根実業高等学校 2年 竹沢 夕日

雨の中さす傘の色カラフルでみわたすかぎりにはじ色の橋

群馬県立利根実業高等学校 2年 川合 菜々海

庭に出て見あげてみれば冬感じ澄んだ空気と満天の星

群馬県立利根実業高等学校 2年 戸丸 純菜

お布団に猫と一緒にいたら占領される私のベット

群馬県立利根実業高等学校 3年 石田 桜雪

教習で運転するにも危険があるどこでも誰にも思いやり大事

群馬県立利根実業高等学校 3年 高橋 里穂

昼食をいくら食べても腹満ちぬ我々の敵食欲の秋

群馬県立利根実業高等学校 3年 山岸 咲月

あの人に包まれる日はいつだろう冬の寒さで凍える夜に

群馬県立利根実業高等学校 3年 柴山 みゆ

ぬくもりを求めて友と暖を取る話に実が入り涼しさ求む

群馬県立利根実業高等学校 3年 柴山 みゆ

恋バナに花を咲かせて春来る実がつきし日はあるのだろうか

群馬県立利根実業高等学校 3年 柴山 みゆ

笑顔咲く親族みんなで集まる日その日が早く来る日常に

群馬県立利根実業高等学校 3年 柴山 みゆ

新しい傘を買ったの雨よ降れお空をみても輝く太陽

群馬県立利根実業高等学校 3年 鶴淵 ゆかり

わた雲を眺めているとチャイム鳴るポーッとすぐ秋のひととき

群馬県立利根実業高等学校 3年 鶴淵 ゆかり

コロナ禍でほとんどマスク行事なし今は後悔やっておけばと

群馬県立利根実業高等学校 3年 本多 夢来

人々が行き通う町なくなつたあの彩かな町なみたち

群馬県立利根実業高等学校 3年 石井 望愛

食事ができて睡眠できて学校へ行けて十分幸せだ

群馬県立利根実業高等学校 3年 岡谷 李乃

試験日の前日とてもそわそわし友から助言君ならできる

群馬県立利根実業高等学校 3年 加藤 詩琉

突然と冷たい風が躍り出す家に帰ってコタツにもぐる

群馬県立利根実業高等学校 3年 後藤 千聖

自販機でコーンスープを見つけて買った手にぬくもりあげる

群馬県立利根実業高等学校 3年 後藤 千聖

単純な僕にとって君の声ががんばるための源動力

群馬県立利根実業高等学校 3年 関上 和真

くやしさがあの日のことを忘れないくやしなみだがこぼれていく

群馬県立利根実業高等学校 3年 南雲 慈苑

高校生子どもから大人へ変わる時選挙に行つて踏み出す一歩

群馬県立利根実業高等学校 3年 星野 七海

寒いときマスクにたまる水蒸気冬のマスクは大変すぎる

群馬県立利根実業高等学校 3年 山崎 愛梨

夜ごはん食べなきゃやせるとなえてもお腹は素直だ嘘をつかない

群馬県立利根実業高等学校 3年 山崎 愛梨

空の下庭に吹き込む北風に寒さを感じ秋の終わり

群馬県立利根実業高等学校 3年 佐々木 ひより

進路がね決まつたことが安心で卒業したら突き進むのみ

群馬県立利根実業高等学校 3年 佐藤 涼風

なにもない日常に色をぬる君といれば世界が変わる

群馬県立利根実業高等学校 3年 佐藤 裕香

だんだんと白くなって思い出がいつかはきつとカラフルになる

群馬県立利根実業高等学校 3年 高橋 菜々子

五時限目天気よき夢心地指名されても意識は通

群馬県立利根実業高等学校 3年 高橋 実鈴

芳香な金木犀の花咲いて一週で散る短期の香り

群馬県立利根実業高等学校 3年 高柳 真鈴

愛犬のやんちゃだつた幼少期今でも変わらず愛らしいなあ

群馬県立利根実業高等学校 3年 田村 暖

約二年マスク生活肌荒れる行事は減るし良いことない

群馬県立利根実業高等学校 3年 大和 紫織

山々の色に負けない橙々色庭に咲かせたガーベラの花

群馬県立利根実業高等学校 3年 安達 由那

肌に触れ過ぎてく風で冬を知る昨日見た山白く染まりゆく

群馬県立利根実業高等学校 3年 大澤 叶華

過ごしたい家族と一緒にいつまでも毎日思う大切な日々

群馬県立利根実業高等学校 3年 田中 心乃花

あたためた毛布の中には思恋猫が寒いときだけ甘えてくるね

群馬県立利根実業高等学校 3年 林 咲衣

山の中蝶に連れられ湖へ水面に写る自然の美

群馬県立利根実業高等学校 3年 深代 麗蘭

寒い日に何となく見た夜の星夏より少し綺麗かも

群馬県立利根実業高等学校 3年 石坂 春果

寒い日は温かい鍋食べようよ体も心体温上がる

群馬県立利根実業高等学校 3年 千明 梨奈

手が荒れてやつと気づけた母の苦労私も少し近づけたかな

群馬県立利根実業高等学校 3年 竹内 乃愛

もろこしが腰の高さに育つたらそつとまたがる初夏の黄昏

群馬県立利根実業高等学校 3年 笠原 瑠楓

寒くなりこたつにみかんセットする毎年恒例我が家にもきた

群馬県立利根実業高等学校 3年 千明 柚杏

秋景色赤と黄色に染まりつ写真に収めたい秋の紅葉

群馬県立利根実業高等学校 3年 千明 柚杏

家の中静かな時間パタパタと小さな足に和ませられ

群馬県立利根実業高等学校 3年 柳澤 京花

満月を見るとあなたを思い出す淋しくひとり眠りにつくの

群馬県立利根実業高等学校 3年 横坂 心美

急な雨一つの傘に身を寄せて胸の高なり聞こえてないかな

群馬県立利根実業高等学校 3年 横坂 心美

落ち葉散り冷たい風吹く秋の日のほくほく焼き芋笑顔の私

群馬県立利根実業高等学校 3年 松井 瑠花

気がつくとき目線の先に君がいる目が合うだけで幸せの日々

群馬県立利根実業高等学校 3年 松井 美希

飲みたかったスタバの新作おいしそつ次のやつに期待しよう

群馬県立利根実業高等学校 3年 荻野 茉雪

ちらちらと橙の葉が増えてきて寒さとともに冬がはじまる
群馬県立利根実業高等学校 3年 林 ほか

秋が来て冷たい風がそよそよと冬がはじまり白くなりつつ
群馬県立利根実業高等学校 3年 林 ほか

さむい朝ちぢむ皮みて感じる冬のはじまりお湯でふやかす
群馬県立利根実業高等学校 3年 林 佳宏

雪が降り今年の終わりに感じる時ふと一年を振り返る日々
群馬県立利根実業高等学校 3年 菅原 里菜

ふんわりと甘い香りに連れられて焼きいも食べる冬のはじまり
群馬県立利根実業高等学校 3年 後藤 美咲

有難う言葉にしなきゃ伝わらないたったの5文字伝えよう
群馬県立利根実業高等学校 3年 藤井 千鶴

戻れないみんなと過したあの時間行けたら行くよまた会えるから
群馬県立利根実業高等学校 3年 岡田 陽奈

「手、出して？」寒いからと握る君秘密が増えてくこんな日常
群馬県立利根実業高等学校 3年 岡田 陽奈

いつの間になくなって貯金額取り戻すためにまた働く
群馬県立利根実業高等学校 3年 田村 花穂

LJK戻りたかったあの頃に後悔残るが未来に期待
群馬県立利根実業高等学校 3年 齋藤 夏凜

聞かれても答えられないこの気持ち好きかどうかはあいまいです
群馬県立利根実業高等学校 3年 阿部 凜花

月がきれい見る人で変わる夜の空ふたりでいるとあたたかい
群馬県立利根実業高等学校 3年 阿部 凜花

グラウンドのぞくと見えた後ろ姿頑張る君はかっこいい
群馬県立利根実業高等学校 3年 阿部 凜花

階段の上から降りてくる君にばれちゃいけない私の気持ち
群馬県立利根実業高等学校 3年 阿部 希花

満月じゃ隣でそう言う君の目に映る光に引きこまれそう
群馬県立利根実業高等学校 3年 阿部 希花

体育祭普段と違う髪型で走る姿にギャップ燃え
群馬県立利根実業高等学校 3年 阿部 希花

コロナ禍でできない行事ばかりでもできる行事を頑張るだけだ
群馬県立利根実業高等学校 3年 小田島 亜弥

スイーツを作るのが好きそれでも趣味を仕事にしてみせるんだ
群馬県立利根実業高等学校 3年 小田島 亜弥

雪降る日喜びはしゃぐ小さな鼻を吸り汗ばむ額
群馬県立利根実業高等学校 3年 谷川 彩葉

凍え出す冬に鳴り出す鈴の音に踊る胸と輝く世界
群馬県立利根実業高等学校 3年 谷川 彩葉

高三の鼻を吸る夕暮れに残り少ない日々を惜しむ
群馬県立利根実業高等学校 3年 谷川 彩葉

雨の後雲間からさす光から濡れた翼と輝く瞳
群馬県立利根実業高等学校 3年 谷川 彩葉

初デート君を見つめて思い出す手のぬくもりと心の大きさ
群馬県立利根実業高等学校 3年 立木 愛梨

君のこと事あることに思い出す変わることない素直な気持ち
群馬県立利根実業高等学校 3年 藤井 夢登

最近夏は暑さと反対にカイロ必須の寒い冬
群馬県立利根実業高等学校 3年 藤井 夢登

冬に向け寒くなってく十月人肌恋しい登下校
群馬県立利根実業高等学校 3年 藤井 夢登

今日のこと端から端まで忘れないきつと忘れる大好きな日々
群馬県立利根実業高等学校 3年 石田 侑亜

変わりゆく季節と共に色を変え心も体も進化していく
群馬県立利根実業高等学校 3年 日向 玄也

夜夜中鳴きつる方を眺むれば時は戻りて扇に筆を
群馬県立利根実業高等学校 3年 石川 幸名

朝やけにそよぐ風からすすきの音光る路との幻想世界
群馬県立利根実業高等学校 3年 齋藤 美紗希

レンズ越し変わらぬ道と増える画は四季折々に色づきだして
群馬県立利根実業高等学校 3年 齋藤 美紗希

いつの間にものびた影と日の長さ光咲く姿今亡き姿
群馬県立利根実業高等学校 3年 齋藤 美紗希

上を見て広がる青はどこまでも続いているよ君の所へ
群馬県立利根実業高等学校 3年 笹原 月

寒い日はこたつの周りに日用品立入禁止私の住み家
群馬県立利根実業高等学校 3年 高橋 美咲

控えめに花を咲かせる金木せい甘い香りは強く放つ
群馬県立利根実業高等学校 3年 富岡 結衣

幾年も寒く冷たい日の中で暖かい春を待ち続ける
群馬県立利根実業高等学校 3年 富岡 結衣

帰り道二人の影が笑ってる夕暮れどきの最後の秋に
群馬県立利根実業高等学校 3年 生方 美月

流れてくきれいな光笑う花いつもの日常変わらない日々
群馬県立利根実業高等学校 3年 松井 海玲

カタカタと鳴り響く部屋授業中冬が過ぎたら聞けなくなる音
群馬県立利根実業高等学校 3年 松井 海玲

春が来て花が咲く頃その時は花びらが舞うそれぞれの道
群馬県立利根実業高等学校 3年 松井 海玲

「ありがとう」その一言が言えなくて今もまだなお反抗かな
群馬県立利根実業高等学校 3年 星野 愛真

観覧車乗った瞬間考える貴方の前か貴方の隣か
群馬県立利根実業高等学校 3年 星野 愛真

「はっ」として街の中で振り返るかすかに香る過去の思い出
群馬県立利根実業高等学校 3年 星野 愛真

最後だと言われて願うこの思い今は時よ止まってください
群馬県立利根実業高等学校 3年 星野 愛真

何気なく過ぎる日々にも価値はあるこれから先もよろしくどうぞ
群馬県立利根実業高等学校 3年 小池 可帆

寒い夜静かに雪が降りつもるこの気持ちがあうもれてしまう
群馬県立利根実業高等学校 3年 小林 佳広

帰り道初めてつないだあなたの手誰ともちがう温もりがある
群馬県立利根実業高等学校 3年 石坂 英大

何気なく撮った一枚思い出に今蘇る過去の記憶
群馬県立利根実業高等学校 3年 石坂 英大

今までは追うだけだった何もかもここからはもう自分らしく
群馬県立利根実業高等学校 3年 石坂 英大

朝起きて時計をみると大寝坊寝癖つけたまま向かう学校
群馬県立利根実業高等学校 3年 石田 瑛帆

校庭の木の葉が散っていくように過ぎ去っていく大切な日々
群馬県立利根実業高等学校 3年 小倉 楓喬

放課後に君と帰った河川敷君の笑顔が夕日に染まる
群馬県立利根実業高等学校 3年 小菅 弥来

烏鬼匆匆と月日が経ちて年経るまるでカゲロウの命如く
群馬県立利根実業高等学校 3年 清水 瑠音

別れとは過去の思いを消せぬまま悔いて過ぐす日々続く
群馬県立利根実業高等学校 3年 田浦 智也

三年間同じ刻を過ごした仲間道は違えど心は繋がる

群馬県立利根実業高等学校 3年 田浦 智也

電車待つ駅のホームはとても寒い電車早く来ないかな

群馬県立利根実業高等学校 3年 眞庭 三希也

冬になり草木も枯れて雪が降り雪の下で春の訪れまつ日々

群馬県立利根実業高等学校 3年 山後 柊也

一日は空のように遅くとも眠るときのみ光のごとく

群馬県立利根実業高等学校 3年 清水 厚志

赤色に染まるもみじよ美しい 友との出会い そして思い出

群馬県立利根実業高等学校 3年 関上 颯太

まだ暗い布団の中は極楽で布団の外はまるでシベリア

群馬県立利根実業高等学校 3年 関根 愛飛

クリスマス豪華な料理プレゼントそんなことより暖房つけて

群馬県立利根実業高等学校 3年 関根 愛飛

秋風に舞い散る紅葉と揺れる葉と綺麗だねと微笑む君と

群馬県立利根実業高等学校 3年 関根 愛飛

卵を割りご飯の上に乗せましてしょうゆを垂らせば卵かけご飯

群馬県立利根実業高等学校 3年 関根 愛飛

朝の日は終末世界に希望を与えて未来に花が咲く

群馬県立利根実業高等学校 3年 吉野 創太

みなかみの四季折々を身で感じ改めて思う広大な自然

群馬県立利根実業高等学校 3年 石坂 成瀬

懐かしく思う昔の思い出は今となっては自分の財産

群馬県立利根実業高等学校 3年 石田 仰輝

神無月季節はずれの寒風に相も変わらず天辺の月

群馬県立利根実業高等学校 3年 宇津野 海翔

朝六時鳥の声で現実にもた戻りたい夢の中へと

群馬県立利根実業高等学校 3年 木村 優斗

寒い朝谷川白く雪化粧今はこいしい夏の太陽

群馬県立利根実業高等学校 3年 小林 陸虎翔

ある夏の暑い日差しに君と僕二人木陰で身を寄せ合う

群馬県立利根実業高等学校 3年 塩浦 匠汰

腹が減るご飯をかうと金が減るサイフの中は常に空なり

群馬県立利根実業高等学校 3年 田村 光

距離間の難しい日々ウィルスと人との距離は類似している

群馬県立利根実業高等学校 3年 山田 拓実

冬景色見れば心がおどるのに人々見ずにこたつ座って

群馬県立利根実業高等学校 3年 綿貫 雅真

葉が散った時にはここにもういない教室変わり気持ち入れ替え

群馬県立利根実業高等学校 3年 綿貫 雅真

変わらない夢を抱いた青春よ必ず掴むさ俺の生き様

群馬県立利根実業高等学校 3年 金古 隼弥

北見ると白くなる山谷川に雪が降るのはそろそろだろう

群馬県立利根実業高等学校 3年 佐藤 令哉

寒くなり猫とコタツで丸くなる何にもかえれぬ至福の時間

群馬県立利根実業高等学校 3年 戸田 貫太

母親が食事をつくる毎日になうまいの一言魔法の言葉

群馬県立利根実業高等学校 3年 戸田 貫太

カマキリが狙い定めているそばで私は君にカメラを向ける

群馬県立利根実業高等学校 3年 戸丸 夢有人

学校で共に過ごしたツバメたち巣立ち飛び去り次は自分が

群馬県立利根実業高等学校 3年 戸丸 夢有人

試合負け室内なのに大雨ひとつ声援が消してくれた僕の声

群馬県立利根実業高等学校 3年 仲澤 綾

雪降れば白く輝く平原やそれにひきたつきみの横顔

群馬県立利根実業高等学校 3年 横坂 莉来

止まらない時の流れに逆うは私の思い Let it be !!

群馬県立利根実業高等学校 3年 増田 旭

休み時間急に始まるおしゃべりがくたらないけどいつも楽しい

群馬県立利根実業高等学校 3年 阿部 佑斗

夜の空君と眺める満月は君の笑顔が投影される

群馬県立利根実業高等学校 3年 井上 零斗

冬の朝早く起きた五時半に寒さ耐えれずまさかの二度寝

群馬県立利根実業高等学校 3年 小田島 優太

親元を離れ始まる冒険が巣立つつばめの海渡りよう

群馬県立利根実業高等学校 3年 上村 流偉

金曜日晴れる心と曇る空帰りは僕を泣かせにくるかな

群馬県立利根実業高等学校 3年 小林 亮斗

布団からでようとするもでられない耳に響くは母の鳴き声

群馬県立利根実業高等学校 3年 田辺 大翔

疫病と共に過ごした学校で気づかされるは友の大切さ

群馬県立利根実業高等学校 3年 戸丸 隼生

大丈夫僕ならできる大丈夫就職試験きつと大丈夫

群馬県立利根実業高等学校 3年 星野 諒

なつかしい季節のように変わってしまう

群馬県立利根実業高等学校 3年 吉野 晃平

夜になり科学の光輝くあたりまへとほむずかしいことだ

群馬県立利根実業高等学校 3年 吉野 晃平

通話越しきみのふざけた鼻歌は汽笛鳴らした機関車のように

群馬県立利根実業高等学校 3年 芳野 成海

僕はまだ勇気をもっていないだけ笑っている子が今日もいる

群馬県立利根実業高等学校 3年 千明 愛翔

我思う遠い月夜を眺めては今ごろ君はどうしているか

群馬県立利根実業高等学校 3年 千木良 昂亮

結果待ち雨降る心を晴らすのは一緒に過ごした大切な友

群馬県立利根実業高等学校 3年 千明 航

いつも見る日々の風景出来事の起こる全ては風の様

群馬県立利根実業高等学校 3年 戸部 壮琉

交差点横断歩道にいる私なぜか顔には雨が零れる

群馬県立利根実業高等学校 3年 星野 創大

働くだけがすべてじゃない私は未来の私にそう言いたい

群馬県立利根実業高等学校 3年 星野 創大

放課後に一緒に過ごしたあの日々は君にとっても思い出かな

群馬県立利根実業高等学校 3年 星野 愛萌

懐かしの面子がそろそろテラス沼田語った今後語った未来

群馬県立利根実業高等学校 3年 伊藤 神威

僕たちが制服着るのもあとわずか時間と止まれ時間よ戻れ

群馬県立利根実業高等学校 3年 伊藤 神威

秋終わる枯葉が散って去ってゆく悔いが残った季節である

群馬県立利根実業高等学校 3年 江連 雄大

屋上で君に言われた生きる理由死にたくないで十分と

群馬県立利根実業高等学校 3年 千喜良 孝太

勇気出し初めて君の手を握る真つ赤な夕日で顔を隠して

群馬県立利根実業高等学校 3年 星野 颯介

手を繋ぎ二人仲良く帰る道雪が降り積もる真冬の帰り道

群馬県立利根実業高等学校 3年 星野 稜馬

君のこと空を見ながら考える自然と目から溢れる雨が

群馬県立利根実業高等学校 3年 星野 稜馬

いつからかなくなり始める春と秋突然暑くなり急に寒くなる
群馬県立利根実業高等学校 3年 諸田 光祐

帰り道葉の無い木々が並んでる面接試験の合否待つ日々
群馬県立利根実業高等学校 3年 山田 真那斗

目の前をカッパルマスクで通り過ぎ横目で今日も働いている
群馬県立利根実業高等学校 3年 金子 柚葵

朝起きてなんだかとてもいい気分こんな日常続くといいな
群馬県立利根実業高等学校 3年 下田 結太

日が入る窓に二人で寄りかかる小さな事が頭に残る
群馬県立利根実業高等学校 3年 津久井 陸翔

暗闇に染まりし僕のこの心照らした光は君の笑顔だ
群馬県立利根実業高等学校 3年 笹木 捺生

人生の主役は僕のはずなのに今の自分はハリボテの森
群馬県立利根実業高等学校 3年 笹木 捺生

肌寒く服の袖にも力入れかじかんだ手に君のぬくもり
群馬県立利根実業高等学校 3年 星野 明莉

秋風が君の髪を通りぬけ香る匂いは心動かす
群馬県立利根実業高等学校 3年 山田 将人

夕暮れに目背け帰るその背から聞こえる声に見とれる私
群馬県立利根実業高等学校 3年 吉岡 篤伸

※本作品集は一般の部とともにみなかみ町ホーム

ページに令和4年3月以降に掲載されます。

第5回（令和3年度）若山牧水みなかみ紀行短歌大会
高校生以下の部 内訳

（受付順）

学校名	投稿者数	本文掲載ページ	
		題詠	自由題
群馬県太田市立木崎中学校	73人	p.28～p.29	p.40～p.41
埼玉県所沢市立小手指中学校	1人	p.29	
群馬県みなかみ町立月夜野中学校	90人	p.29～p.30	p.41～p.44
山口県光市立光井小学校	1人	p.30	p.44
山口県光市立光井中学校	3人	p.30	p.44
群馬県みなかみ町立水上中学校	46人	p.30～p.31	p.44～p.45
愛知県立旭丘高等学校	1人		p.45
群馬県立沼田高等学校	132人	p.31～p.32	p.45～p.47
群馬県立利根実業高等学校	308人	p.32～p.38	p.47～p.55
合計（9校）	655人	466人／569首	588人／820首
		合計 1,389首	

第5回若山牧水みなかみ紀行短歌大会
高校生以下の部作品集

発行日

令和4年（2022）3月6日 発行

編集／発行

若山牧水みなかみ紀行短歌大会実行委員会

〒379-1305

群馬県利根郡みなかみ町後閑321番地1

みなかみ町教育委員会生涯学習課

電話 0278（25）5025

令和3年度若山牧水みなかみ紀行短歌大会補助事業
第5回若山牧水みなかみ紀行短歌大会

開催日 令和4年(2022)3月6日(日)

会場 みなかみ町カルチャーセンター

群馬県利根郡みなかみ町上牧 1735

主催 若山牧水みなかみ紀行短歌大会実行委員会

共催 みなかみ町牧水会

後援 みなかみ町・みなかみ町教育委員会・おちあいしんぶんマイタウン
たにがわ・沼田エフエム放送株式会社・(一財)三国路与謝野晶子
紀行文学館・三成社株式会社

